

令和2年度

**「総合的な探究の時間」の
進め方ガイドブック
(理論編)**

**令和4年3月改訂
千葉県総合教育センター**

はじめに

平成28年12月の中央教育審議会答申において、これまでの総合的な学習の時間の課題と更なる期待として、次のことが示されました。1つ目は、地域の活性化につながるような事例が生まれている一方で、本来の趣旨を実現できていない学校もあり、小・中学校の取組の成果の上に高等学校にふさわしい実践が十分展開されているとは言えない状況にあるということ。2つ目は、各学校段階における総合的な学習の時間の実施状況や、義務教育9年間の修了時及び高等学校修了時までには育成を目指す資質・能力、高大接続改革の動向等を考慮すると、高等学校においては、小・中学校における総合的な学習の時間の取組の成果を生かしつつ、より探究的な活動を重視する視点から、位置付けを明確化し直すことが必要であることという2点です。

これらを踏まえて学習指導要領が改訂され、高等学校では令和4年度から本格実施となります。今回の改訂のポイントは、新しい時代に必要となる資質・能力の育成です。総合的な学習の時間は、「総合的な探究の時間」に名称が変更となります。小・中学校では探究的な学習を行うのに対して、高等学校では「探究活動」を行います。つまり、小・中学校の取組の土台に立って、高等学校では、より質の高い探究活動を行うことが期待されています。

本研究では、研究主題を「高等学校における探究活動に関する研究～総合的な探究の時間を通して～」と定め、平成31年度から研究に取り組んできました。学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえ、各高等学校で総合的な探究の時間を実際に進める際、何から行っていけばよいか、また、実際の授業で生徒をどのように支援すればよいか、さらに、今年度は評価をどのように進めればよいかを6校の研究協力校の実践を基に研究してきました。そして、現場の先生方が実際に手元に置いて活用できるガイドブックとして、理論編、実践編の2冊にまとめています。

本ガイドブック（理論編）は、令和元年度、2年度の研究成果をまとめたものです。総合的な探究の時間を進める上で、まず学校が取り組むべき内容を整理し、全体計画、年間指導計画、単元計画のモデルプランを示しました。また、指導のポイントと実践例を盛り込んだ指導過程をまとめました。学習指導要領の本格実施まであと1年となった令和3年度、各高等学校が総合的な探究の時間を進める際の一助となれば幸いです。

終わりに、本研究を進めるに当たって、御指導いただいた文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官・国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官 渋谷一典先生、研究に協力いただいた6校の研究協力校の校長先生と研究協力員の先生方に心より感謝申し上げます。

令和3年3月

千葉県総合教育センター所長 櫻井 比呂樹

「総合的な探究の時間」の進め方ガイドブック（理論編）

目 次



チーバくん

第Ⅰ章 探究活動の在り方

- 1 「総合的な学習の時間」から「総合的な探究の時間」へ・・・・・・・・・・ 1
 - (1) キーワードは「探究」
 - (2) 総合的な探究の時間の目標
- 2 「総合的な探究の時間」の特質・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - (1) 質の高い探究へ
 - (2) 他教科・科目における探究との違い
- 3 総合的な探究の時間における学習の在り方・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 4 各学校が目標・内容を定めること・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - (1) 目標や内容の決定
 - (2) 指導計画の作成
 - (3) 評価規準の設定

第Ⅱ章 探究活動に向けて（進め方）

- 1 校内組織を整備しましょう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - (1) 校内推進委員会の組織
 - (2) 授業担当者による会議
 - (3) 複数の教職員での指導
 - (4) 教職員の研修
- 2 校内体制づくりをしましょう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
 - (1) 弾力的な運用
 - (2) 学習環境の整備
 - (3) 外部との連携

3	指導計画を作しましょう・・・・・・・・・・・・・・・・	9
(1)	目標と内容の設定	
(2)	全体計画の作成	
(3)	年間指導計画の作成	
(4)	単元計画の作成	
4	オリエンテーションを実施しましょう・・・・・・・・	18
5	探究の過程を進めましょう・・・・・・・・・・・・・・・・	20
(1)	課題の設定	
(2)	情報の収集	
(3)	整理・分析	
(4)	まとめ・表現	
6	学習状況を評価しましょう・・・・・・・・・・・・・・・・	35
(1)	学習評価の充実	
(2)	学習評価の基本構造	
(3)	生徒の学習状況の評価	
(4)	内容のまとまりについて	
(5)	学習評価の進め方について	
(6)	単元の評価規準の作成のポイント	
(7)	評価結果の単位認定	

巻末資料

(1)	県立長生高等学校	42
	独自のテキストを活用した普通科の実践	
	(全体計画・年間指導計画・単元計画)	
(2)	県立大原高等学校	47
	キャリア教育に重点を置いた実践	
	(全体計画・年間指導計画・単元計画)	
(3)	県立袖ヶ浦高等学校	52
	I C T機器を活用した情報科の実践	
	(全体計画・年間指導計画・単元計画)	

第 I 章 探究活動の在り方

1 「総合的な学習の時間」から「総合的な探究の時間」へ

(1) キーワードは「探究」

総合的な探究の時間については、中央教育審議会答申(平成28年12月)により「高等学校における総合的な学習の時間においては、各教科等の特質に応じた『見方・考え方』を総合的・統合的に働かせることに加えて、自己の在り方生き方に照らし、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら『見方・考え方』を組み合わせることで統合させ、働かせながら、自ら問いを見だし探究することのできる力を育成するようにする。このため、高等学校の総合的な学習の時間については、名称を『総合的な探究の時間』などに変更することも含め位置付けを見直す。」と示されました。

平成30年3月、高等学校新学習指導要領が告示され、その改訂の基本方針では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進があげられています。子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、これまでの学校教育の蓄積も生かしながら、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要とされました。このようなことを踏まえ、より探究的な活動を重視する視点から高等学校に「総合的な探究の時間」が新設されました。

教科・科目構成の見直しの中でも「探究」は重視され、理数科の「理数探究基礎」、「理数探究」をはじめ、「古典探究」、「地理探究」、「日本史探究」、「世界史探究」が新設されています。今後、高等学校において「探究」をキーワードにして授業改善を図る傾向は強まるものと考えられます。

新しい社会で活躍できる人材の育成に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の実現のためには、どのように学ぶかが大切です。これからの教育は、教科・科目等の枠を超えた横断的・総合的な学習を行い、探究することをその本質とする総合的な探究の時間の在り方を手本とし、授業改善に努めていくことが求められます。教員一人一人が、これからの高校生に必要な力、すなわち主体的に課題を見つけ、自分なりに解決していく力を育成していくことが求められているのです。

(2) 総合的な探究の時間の目標

総合的な探究の時間の第1の目標は、大きく分けて二つの要素で構成されています。一つは、総合的な探究の時間に固有な見方・考え方を働かせて、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成するという、総合的な探究の時間の特質を踏まえた学習過程の在り方です。もう一つは、総合的な探究の時間において育成を目指す資質・能力です。育成を目指す資質・能力は、他教科等と同様に、①では「知識及び技能」を、②では「思考力、判断力、表現力等」を、③では「学びに向かう力、人間性等」をそれぞれ示しています。

<第1 目標>

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ① 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
→ 知識及び技能
- ② 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
→ 思考力、判断力、表現力等
- ③ 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。
→ 学びに向かう力、人間性等

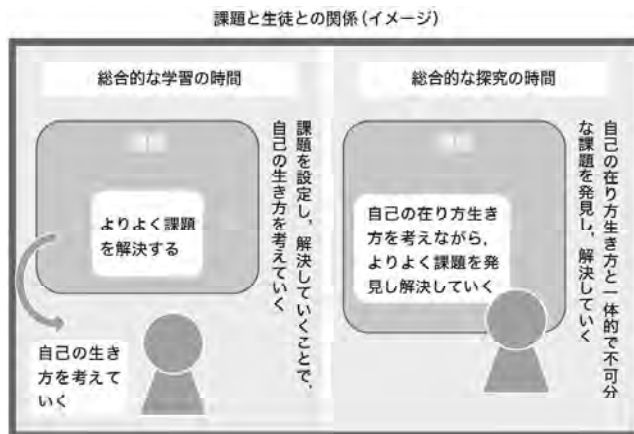
探究の見方・考え方

探究の見方・考え方には、二つの要素が含まれています。一つは、各教科・科目等における見方・考え方を総合的・統一的に働かせるということです。もう一つは、総合的な探究の時間に固有な見方・考え方を働かせることです。それは、特定の教科・科目等の視点だけでは捉えきれない広範かつ複雑な事象を多様な角度から俯瞰して捉えることであり、また、実社会や実生活の複雑な文脈や自己の在り方生き方と関連付けて問い続けるという、総合的な探究の時間に特有の物事を捉える視点や考え方のことです。

2 「総合的な探究の時間」の特質

(1) 質の高い探究へ

小・中学校における「総合的な学習の時間」と高等学校の「総合的な探究の時間」の違いは、課題と自分自身との関係で考えることができます。高等学校学習指導要領解説によると、総合的な学習の時間は、(必要によって教師の助けも受けながら)「課題を設定し、解決していくことで、自己の生き方を考えていく」のに対して、総合的な探究の時間は、「自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を自ら発見し、解決していく」となっています。



高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編より

高等学校においてこのような生徒の姿を実現していくに当たっては、生徒が取り組む探究がより洗練された質の高いものであることが求められます。質の高い探究とは、「高度化」と「自律的な探究」の二つの観点で考えることができます。

高度化する探究の四つの要素

- ① 整合性・・・探究において目的と解決の方法に矛盾がない
- ② 効果性・・・探究において適切に資質・能力を活用している
- ③ 鋭角性・・・焦点化し深く掘り下げて探究している
- ④ 広角性・・・幅広い可能性を視野に入れながら探究している

自律的な探究を進める三つのポイント

- ① 自己課題・・・自分にとって関わりが深い課題になる
- ② 運用・・・探究の過程を見通しつつ、自分の力で進められる
- ③ 社会参画・・・得られた知見を生かして社会に参画しようとする

(2) 他教科・科目における探究との違い

先に述べたように、理数科の「理数探究基礎」、「理数探究」をはじめ、「古典探究」、「地理探究」、「日本史探究」、「世界史探究」が新設されましたが、総合的な探究の時間で行われる探究は、以下の三点が異なっています。

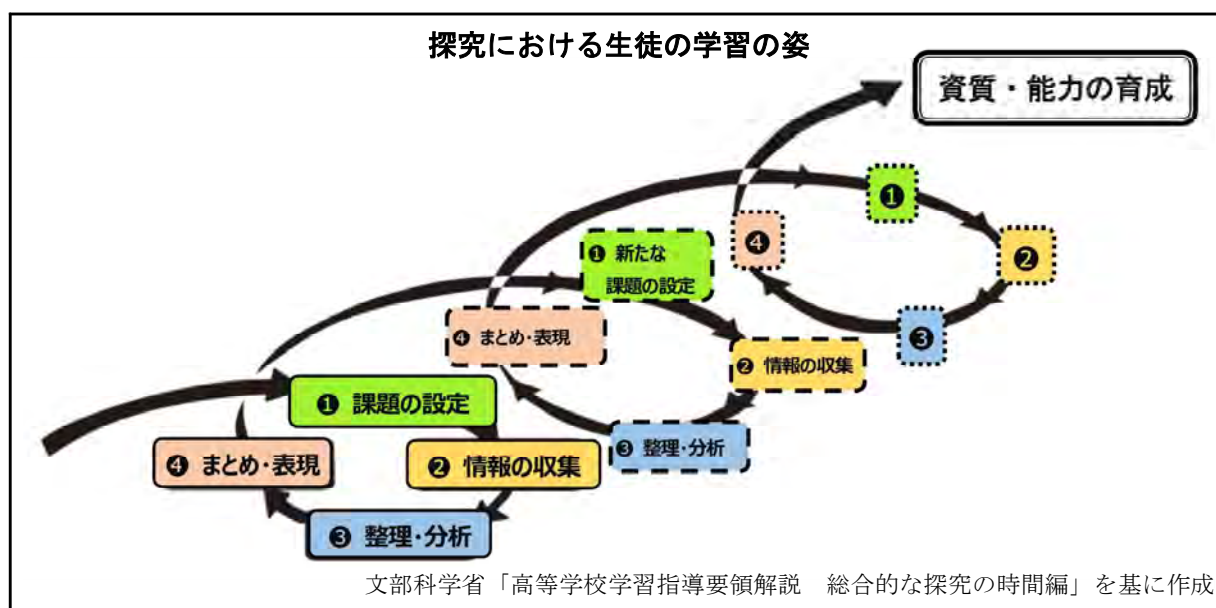
- ① 学習の対象や領域は横断的・総合的であること。実社会や実生活における複雑な文脈の中に存在する事象を対象とすること。
- ② 複数の教科・科目等における見方・考え方を総合的・統合的に働かせて探究すること。実社会や実生活における複雑な文脈の中に存在する問題を様々な角度から俯瞰して捉え、考えていくこと。
- ③ 解決の道筋がすぐには明らかにならない課題や、最適解や納得解を見出すことを重視すること。

3 総合的な探究の時間における学習の在り方

「探究」とは、「物事の本質を自己との関わりで探り見極めようとする一連の知的営み」のことです。総合的な探究の時間の本質は、「探究の過程」です。総合的な探究の時間における学習では、問題解決的な学習が発展的に繰り返されていきます。

＜探究の四つの過程＞

- ① 課題の設定・・・体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ
- ② 情報の収集・・・必要な情報を取り出したり収集したりする
- ③ 整理・分析・・・収集した情報を、整理したり分析したりして思考する
- ④ まとめ・表現・・・気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する



※ この①～④の過程を固定的に捉える必要はありません。活動の順序が入れ替わったり、ある活動が重点的に行われたりすることもあります。また、①～④の探究活動は、単元において繰り返して行われます。中心的な課題の解決に向けて、複数の下位の課題が生まれ、それぞれの解決に向けた探究活動が行われます。こうした学習活動をスパイラルに繰り返していくことが、質の高い探究の過程を実現することにつながります。

4 各学校が目標・内容を定めること

(1) 目標や内容の決定

教育課程に位置付けられた各教科・科目においては、どの学校においても、学習指導要領に示されている目標、内容に基づいて学習が進められます。これとは異なり、「総合的な探究の時間」においては、学習指導要領に示された目標及び各学校における教育目標を踏まえ、各学校が目標、内容とも定めることとされています。各教科・科目との違いはここにあります。各学校は、総合的な探究の時間での取組を通して、どのような生徒を育てたいのか、また、どのような資質・能力を育てようとするのかなどを、各学校自体が主体となって明確にしなければなりません。

各学校が目標を設定するに当たっては、目標に示された二つの基本的な考え方※₁を踏襲すること、育成すべき資質・能力の三つの柱※₂それぞれについて第1の目標に示された趣旨を適切に盛り込むことです。この点を踏まえつつ、教科・科目等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸となるよう設定します。また、内容に関しても、地域や学校、生徒の実態に応じて、創意工夫を生かした内容を定めることが求められています。

※₁ 「探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して」と「自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指す」の二つ

※₂ 「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つ

(2) 指導計画の作成

指導計画の作成においては、まず各学校においての目標と内容を設定し、それに基づいて全体計画、年間指導計画及び単元計画を作成していきます。

① 全体計画

学校として、入学し卒業するまでを見通して、この時間の教育活動の基本的な在り方を概括的・構造的に示します。「目標」は学校を単位として設定しますが、「目標」以外の項目を課程や学科ごとに設定する場合は、全体計画についても課程や学科ごとに作成します。

② 年間指導計画

全体計画を踏まえ、どのような学習活動を、いつ、どのくらいの時数で実施するのかなどを示します。

③ 単元計画

総合的な探究の時間において、単元とは、課題の解決や探究活動が発展的に繰り返される一連の学習活動のまとまりのことです。単元計画は年間指導計画と相互に関連していますので、その作成作業においては、両者を常に視野に入れ、それぞれの計画を作成することが大切です。

なお、各学校における総合的な探究の時間の名称については、適切に定めることとされています。

(3) 評価規準の設定

評価規準の設定については、各学校の全体計画や単元計画を基に、単元で実現が期待される育成を目指す資質・能力を設定します。この評価規準については、年間や単元を通して育成したい資質・能力をそのまま当てはめることができます。そして、各観点に則して実現が期待される生徒の姿が、単元のどの場面のどのような学習活動において、そのような姿として実現されるかをイメージします。

生徒の具体的な学習状況の評価方法については、信頼される評価の方法であること、多面的な評価の方法であること、学習状況の過程を評価する方法であること、の三つが重要です。

詳しくは、「第Ⅱ章 探究活動に向けて（進め方）」の中で、説明します。

第Ⅱ章 探究活動に向けて（進め方）

1 校内組織を整備しましょう

(1) 校内推進委員会の組織

「総合的な探究の時間」は各学校における教育目標を実現するために非常に重要な役割をもっています。また、各教科、科目等との相互の関わりを意識しながら、学校として育てたい資質・能力に対応したカリキュラム・マネジメントを行っていくことが求められています。これを実現

するためには校長のリーダーシップのもと、学校全体で「総合的な探究の時間」を運営していくことが大切であり、そのために校内組織を編成することが必要になります。この「総合的な探究の時間」推進委員会を組織するメンバーを中心として、学校としての目標や各学年や学科としての取組の方向性を決めていきます。学校全体の取組となるように部会で決定したことは職員会議等で共有し、全教職員の共通理解のもとに「総合的な探究の時間」を進めていくことが大切です。

「総合的な探究の時間」推進委員会の代表的な構成例としては、総合的な探究の時間推進担当（コーディネーター）と各学年や学科からの代表数名です。他の教諭や担当者などを加える場合もあります。

「総合的な探究の時間」推進委員会が行う主な内容

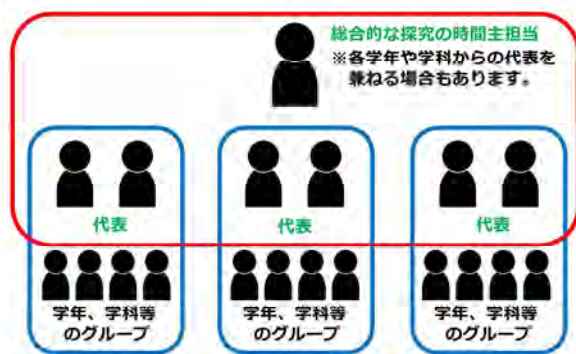
- ① 目標・内容の設定
- ② 各学年、各学科の目標、内容の方針を決定
- ③ 評価方法等の方針決定
- ④ 各学年や各学科との連絡・調整
- ⑤ 各学年や各教科からの実施状況や評価を受け、改善策等の検討

各学年、学科等の担当グループでは、推進委員会が設定した目標や内容、各学年や各学科の方針を受け、各グループの年間計画、単元計画の作成を行います。そして、推進委員会のメンバーを中心に授業の具体的な進め方について会議を行っていきます。円滑に授業が行われるように、週時程に会議を位置付けておくことも必要であると考えます。また、全体に関わる課題や各担当グループでの成果や課題などについては推進委員会に報告し、推進委員会で連絡・調整、改善策等を検討します。

(2) 授業担当者による会議

総合的な探究の時間の授業を行う場合、同じ学年や学科だけでなく、異なる学年や学科で合同して行う場合もあります。このことから、授業担当者による会議は、総合的な探究の時間を行う上で重要な役割をもっています。したがって、授業担当者による会議は週時程に位置付けるなどの工夫をして、円滑に学習活動が実施されるようにする必要があります。

授業担当者による会議は、指導計画の改善、次々と出てくる課題の解決、効果的な



「総合的な探究の時間」推進委員会（例）

指導方法についての学び合いなど、研修の場、共通理解の場などとしての役割もあります。

(3) 複数の教職員での指導

生徒を指導する体制としては、学級担任が自学級を直接指導する体制、学級枠を取り外して学年内の教師で指導を分担する指導体制や、学年枠を外して教職員全体で指導を分担する指導体制などが考えられます。このように、総合的な探究の時間は、教師の特性や専門性を生かした全教職員による協働的な取組が求められています。

(4) 教職員の研修

総合的な探究の時間を充実させるためには、指導する教師の指導計画の作成と運用の能力、授業の構想力、そして授業での指導力や評価力などが必要です。また、教師がチームを組んで指導に当たることから、教職員全体の指導力向上を図る必要もあります。さらに、教科・科目等横断的な視点からカリキュラムをデザインする力も求められています。これらの点から、校内研修に総合的な探究の時間のための研修を位置付け、実施することがたいへん重要です。特に、今回の改訂により、総合的な探究の時間は、教科・科目等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸になることから、学校全体で行う研修に位置付けたいものです。

以下は総合的な探究の時間の研修内容の例ですが、授業を実際に進める教師の必要感を生かした校内研修計画を立てることが大切です。

- ① 総合的な探究の時間の目標、内容について
- ② 総合的な探究の時間の教育課程における位置付けや各教科・科目、特別活動及び道德の全体計画との関連について
- ③ 全体計画、年間指導計画、単元計画の作成及び評価について
- ④ 教材開発の在り方や地域素材の生かし方について
- ⑤ 総合的な探究の時間のためのICTの活用について

校内研修は、全体研修の場合もありますが、学年単位や学科単位、課題別グループ単位など、弾力的、継続的に実施することが大切です。以下は、研修方法の例ですが、各学校の実態や研修のねらいに応じて実施すべきです。

- ① 校内での研修例
 - ・グループ研修：指導計画作成や教材作りの演習、テーマに基づくワークショップなど
 - ・全体研修：視察報告会、講師を招いての講義など
- ② 校外での研修例
 - ・視察研修：公開研究会の参加、先進校の視察など
 - ・実地体験研修：生徒の体験活動の臨地研修とその評価など
 - ・教材収集研修：地域の教育資材となるものの観察や調査など

2 校内体制づくりをしましょう

(1) 弾力的な運用

総合的な探究の時間では、体験活動が重視され学習活動が多様に展開されます。また、地域の特色などを生かした学習活動が行われます。生徒の学習活動は校外に行われたり、季節の変化や学校行事に応じて集中的に行われたりします。そのため、通常、1週あたり1時間の授業時数を隔週で2時間連続して実施する場合があります。また、体験活動など、総合的な探究の時間を集中的に実施する期間を設けることもあります。さらに、各学年1単位ずつ実施するのではなく、特定の学年で2単位や3単位実施することも考えられます。

(2) 学習環境の整備

総合的な探究の時間の学習を深めていくには、学習環境が適切に整えられていなければなりません。各学校が総合的な探究の時間のねらいを実現するために必要な学習環境の整備を行っていく必要があります。

学習活動を行う際、教室以外にも活動を行うスペースが確保されていると、スムーズに展開することができます。たとえば、空き教室を整備し活用したり、オープンスペースがある場合、オープンスペースを有効に活用したりすることが考えられます。また、必要な情報を収集し活用できる学校図書館の環境を整えておくことも大切です。

コンピュータをはじめとする情報機器は、情報検索や情報活用、情報発信の可能性を広げるので、積極的に活用することが望まれます。校内に配置されているコンピュータはもちろんですが、生徒が所有するスマートフォンやタブレット端末等を、ルールを定めた上で、活用させることも考えられます。これらの情報機器を活用することにより、生徒が必要なときに必要なことをすぐに調べることができます。そのためには、教室やオープンスペース等でインターネットへの接続できる環境を整えておく必要があります。また、調査活動の記録のため、デジタルカメラやデジタルビデオカメラ、ICレコーダーなどを整備しておくことも必要です。発表活動を効果的に行うために、プレゼンテーションのソフトやプロジェクターなどを整備しておくことも望まれます。

(3) 外部との連携

総合的な探究の時間では、地域素材や地域の学習環境を積極的に活用することが期待されています。そのため、保護者や地域の人々、大学等の高等教育機関、各種研究機関や団体、市町村の役場や教育委員会、商工会議所や商工会、非営利団体等の連携・協力が欠かせません。

外部連携に当たっては、管理職、総合的な探究の時間推進担当（コーディネーター）等の担当者が中心となり、外部人材等と連絡・調整の機会を定期的に設定することが考えられます。また、校内に外部連携を効率的・継続的に行うためのシステムの準備が必要です。そのための配慮事項は次の五つです。

① 日常的な関わり

協力的なシステムを構築するためには、日頃から外部人材などと適切に関わろうとする姿勢をもつことが大切です。例えば、地域活動に学校側から積極的に参加したり、地域の人を社会人講師として招いたりします。

② 担当者や組織の設置

校務分掌上に地域連携部などを設置したり、外部と連携するための窓口となる担当者[総合的な探究の時間推進担当（コーディネーター）等]を置いたりします。その上で、地域との連絡協議会などの組織を設置することも考えられます。その際、地域連携担当者を校内組織に位置付けます。

③ 教育資源のリスト

総合的な探究の時間に協力可能な人材や施設などに関するリストを作成します。

④ 適切な打合せの実施

外部人材に対して、適切な対応を心掛けるとともに、授業のねらいを明確にし、教師と連携先との役割分担を事前に確認するなど、十分な打合せをする必要があります。

⑤ 学習成果の伝達

学習成果の発信は必要です。手紙や学校だよりの配付をして、保護者や地域の人々に総合的な探究の時間の成果を発表する場と機会を設けます。また、異校種交流として地域の小・中学生と高校生とで、互いの学習の成果を発表し合うことも考えられます。

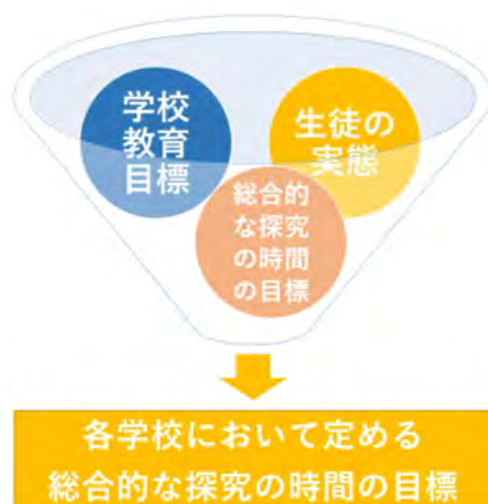
3 指導計画を作りましょう

指導計画の作成においては、各学校における目標と内容の設定、それに基づく全体計画、年間指導計画、単元計画の作成、という流れで計画を立てていきます。

(1) 目標と内容の設定

① 目標

指導計画作成の初めに、総合的な探究の時間の目標を設定します。総合的な探究の時間を進めるにあたり、一番の柱になるものですので、十分に検討して決めていくことが大切です。目標の設定にあたっては、学習指導要領に記載の総合的な探究の時間の目標、学校教育目標、生徒の実態等を踏まえ、将来の生徒像をイメージしながら、学習活動の在り方とともに、育てたい資質・能力を明確にします。



【研究協力校の例（県立袖ヶ浦高等学校）】

学校教育目標

- (1) 心身ともに健康で、基本的人権を尊重する平和的で文化的な国家及び社会の有為な形成者として、真、善、美を求めて止まない人間性豊かな生徒を育成する。
- (2) 集団の一員としての自覚と国際的な視野を持ち、自他ともに愛する民主的な人間、社会に貢献できる人間を育成する。
- (3) 自ら課題を発見し主体的にその課題を解決する能力とたくましく社会を生き抜く体力・精神力を培い、自己の未来を創造できる人間を育成する。



総合的な探究の時間の目標

探究の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通じて、自己の在り方生き方を考えながら、より良い社会の創造と発展に貢献する社会人として必要な資質・能力を次のとおりに育成することを目指す。

- (1) 情報に関する様々な技術や手法について具体的に理解するとともに、課題の発見と解決に向けた探究活動を通して、相互に関連付けられた知識・技術を身に付ける。
- (2) 学校や身近な地域社会で生活をより豊かにするための課題を発見し、調査結果や実証実験等に基づいて整理・分析しながら解決策を探究していくとともに、課題解決までの過程を適切にまとめ・表現できるようにする。
- (3) 課題を解決するための探究活動を通して、情報技術の活用や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

下線が学校教育目標に関わる部分、赤枠が柱文になります。そして、(1)は「知識及び技能」、(2)は「思考力、判断力、表現力等」、(3)は「学びに向かう力、人間性等」と三つの柱で整理されています。

② 内容

目標を実現するにふさわしい探究課題（何を学ぶか）、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力（どのようなことができるようになるか）を設定します。

探究課題については、探究の見方・考え方を働かせること、横断的・総合的な学習としての性格をもつこと、自己の在り方や生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決することに結び付くようにすること、という三つの要件を満たす課題を設定します。

また、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力については、次の点に留意して設定します。

ア 知識及び技能

他教科等で習得する知識及び技能が相互に関連付けられ、社会の中で生きて働くものとして形成されるようにします。

イ 思考力、判断力、表現力等

課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などの探究の過程で発揮され、未知の状況において活用できるようにします。

ウ 学びに向かう力、人間性等

「自分自身」、「他者や社会との関わり」の両方の視点を踏まえて設定します。

※ 探究課題及び具体的な資質・能力については、教科・科目等を超えたすべての学習の基礎となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力など）が育まれ、活用されるものとなるように配慮することが必要です。

【研究協力校の目指す資質・能力の例（県立袖ヶ浦高等学校）】

探究課題	地域や学校の特色に応じた課題
【知識及び技能】 ・自ら設定した課題を深く掘り下げ、探究する過程において、情報セキュリティや情報モラルに配慮した作業ができる。 ・情報機器を適切に活用して整理・分析・記録・評価する手法や意義について理解する。 ・課題を解決するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。 ・前提条件と結果を理解し、既知の知識と照らし合わせ、体系的知識として研究に対する取組を説明することができる。	→ 技能 → 知識 → 知識 → 技能
【思考力、判断力、表現力等】 ・問いかける力・・・調査・発表において、提示された内容を鵜呑みにするのではなく、要因や根拠を求めて追究することができる。学校生活や身近な社会の中から適切に課題を設定することができる。 ・情報活用能力・・・課題解決に必要な情報を分析し、類別して蓄積することができる。 ・論理的思考力・・・視点を定めて多様な情報を分析することができる。 ・コミュニケーション力・・・相手や目的、意図に応じて論理的に表現することができる。	→ ①課題の設定 → ②情報の収集 → ③整理・分析 → ④まとめ、表現
【学びに向かう力、人間性等】 ・自分の意思で真摯に課題に向き合い、解決に向けた探究に取り組もうとすることができる。 ・課題解決のために必要な知識や技能を身に付けようとするすることができる。 ・共同して研究・発表を行うことで養われる、自他のよさを認め、特長を生かしながら、協働して解決に向けた探究に取り組むことを通じ、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとするすることができる。	→ 「自分自身」 → 「自分自身」 → 「他者や社会」

(2) 全体計画の作成

総合的な探究の時間の目標と内容を定めたら、全体計画を作成していきます。全体計画に盛り込むものとしては、下記のように、①必須の要件として記すもの、②基本的な内容や方針等を概括的に示すもの、③その他、各学校が全体計画を示す上で必要と考えるもの、の三つの要素があります。各学校における目標と内容（①に該当）が、この計画表の中心となります。なお、計画表の枠組みの上段部分（③に該当する部分）は、各学校が必要と考えるものをここに記します。

① 全体計画の必須の要件として記すもの

各学校における教育目標、各学校において定める目標及び内容

② 基本的な内容や方針等を概括的に示すもの

学習活動、指導方法、指導体制（環境整備、外部との連携を含む）、学習の評価

③ その他、各学校が全体計画を示す上で必要と考えるもの

例えば、年度の重点、地域・学校・生徒の実態、保護者・地域・教職員の願いなど

「総合的な探究の時間」全体計画					〇〇高等学校 〇〇科
生徒の実態		保護者の願い		地域の実態	
学校教育目標					
「総合的な探究の時間」の目標					
〔柱文〕 (1) 知識及び技能 (2) 思考力、判断力、表現力等 (3) 学びに向かう力、人間性等					
「総合的な探究の時間」の内容					
学年		第 1 学年		第 2 学年	
探究課題					
探究課題の 具体的な資質・能力 を育成を目指す	知識 及び 技能				
	思考 力、 表現 力等				
	学 び に 向 か う 力				
学習活動		指導方法		指導体制	
学習の評価		学習の評価		学習の評価	

「総合的な探究の時間」全体計画

〇〇高等学校 〇〇科

生徒の実態	保護者の願い	地域の実態	地域の願い
※上記4つは例です。他に、年度の重点、学校・課程・学科の実態、教職員の願い、各教科・科目等との関連、地域や大学との連携、周辺の学校との連携等、各学校が必要と考えるものをここに記します。			

学校教育目標
「総合的な探究の時間」の目標は、「各学校における教育目標」を踏まえて設定することとなっているため、ここに「学校教育目標」を示します。

「総合的な探究の時間」の目標
〔柱文〕 (1) 知識及び技能 (2) 思考力、判断力、表現力等 (3) 学びに向かう力、人間性等 学習指導要領の「総合的な探究の時間」の目標及び「各学校における教育目標」を踏まえ、育てたいと願う生徒像や育成を目指す資質・能力、学習活動の在り方などを示す。柱文に続き、(1)から(3)の三つの柱に基づいて定めます。

この学習対象を通して	「総合的な探究の時間」の内容		
学年	第1学年	第2学年	第3学年
探究課題	生徒が何を学ぶかを表したもの(学習対象)学年ごとに区別しなくてもかまいません。 他教科等及び総合的な探究の時間で習得する知識及び技能が相互に関連付けられ、社会の中で生きて働くものとして形成されるようにします。 探究の過程(課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現など)において発揮され、未知の状況において活用できるものとして身に付けられるようにします。 自分自身に関すること及び他者や社会との関わりに関することの両方の視点を踏まえます。 生徒が何を学ぶかを表したもの(学習対象)学年ごとに区別しなくてもかまいません。 参考 ・現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題 ・地域や学校の特色に応じた課題 ・生徒の興味・関心に基づく課題 ・職業や自己の進路に関する課題		
探究課題の具体的な解決を通して資質・能力を育成を目指す	この資質・能力の育成を目指す		

学習活動	指導方法	指導体制	学習の評価
実際の指導計画においては、「単元計画」や「年間指導計画」として示されます。	学習活動を適切に実施する際に必要とされる指導の方法を記します。	上記計画、実施を適切に推進するための体制を記します。	生徒の学習状況の評価、教師の学習指導の評価、指導計画の評価が含まれます。

※巻末資料に研究協力校で作成した全体計画があります。

(3) 年間指導計画の作成

年間指導計画における単元の配列には、1年間を通して一つの単元を行う場合や、複数の単元を行う場合などがありますが、いずれにおいても、育成を目指す資質・能力を中心に、学習活動や生徒の意識の連続や発展を考慮し、1年間を見通して計画を立てることが大切です。

作成及び実施上の配慮事項として、学習経験に配慮すること、季節や地域の行事などの適切な活動時期を生かすこと、他教科との関連を明らかにすること、異校種・他校との交流を意識すること、などがあります。計画表の枠組みには、これらに配慮した計画となるような工夫がなされています。

次のような手順で記入していきます。

- ① 総合的な探究の時間を中心に配置し、単元で区切って示します。
- ② その左右に、特に関連のある教科・科目等（LHRも含めて）を置きます。
- ③ 総合的な探究の時間のそれぞれの単元においては、四つの過程を意識し、それぞれの過程における主な学習活動を記入します。
- ④ 特に関連のある教科・科目等の欄には、総合的な探究の時間で育成を目指す資質・能力と関連のある学習活動について、単元名、学習内容を記入します。
- ⑤ ④の学習活動と、それに関連のある総合的な探究の時間の学習活動とを矢印で結んでいきます。
- ⑥ 特に関連のある教科・科目以外で総合的な探究の時間に関わる学習活動がある場合は、右端の欄に記入します（その他の科目、連携・交流等）。
- ⑦ 最上段の「前年度の学習」の欄には前年度の学習内容を記入します。この欄により、学習経験を把握することができます。

「総合的な探究の時間」（○単位） 年間指導計画 ○○高等学校 ○○科 第○学年									
前年度の学習		行事		総合的な探究の時間				その他の教科、連携・交流等	
4月									
5月									
6月									
7月									

年間指導計画計画 記入上の注意

「総合的な探究の時間」(○単位) 年間指導計画 ○○高等学校 ○○科 第○学年

前年度の学習	行事	(例)国語総合	(例)情報	(例)課題の設定 (○時間)	総合的な探究の時間 学習活動	(例)LHR	○○	その他の科目、連携・交流等
	入学式							
4月					主な学習活動を記入します。学習活動をひとつのまとまりごとに記入していきます。			
5月	合唱祭	(例)評論一 文章の主題を捉え、要旨をまとめることができる。 (思、判、表)		情報の収集 (○時間)	学習過程等や予定時数を記入します。 予定時数に合わせて学習活動の区切りの線を引きます。	(例)人生について考えよう 自分の将来の姿を想像し、今後の学校生活の課題や目標を設定する。 (学、人)		
6月			(例)データベース データベースによる情報管理を行う。 (知、技)	整理・分析 (○時間)	単元名と予定時数を記入します。 1年間を2つの単元で行う場合には大きな枠組みを2つ作成します。			
7月				まとめ・表現 (○時間)				特に関連のある教科・科目(左に書かれたもの)以外で関わりのある学習活動については、この欄に記入します。
9月	文化祭	(例)評論二 評論の主題を的確に読み取り、自分の意見をまとめる。 (思、判、表)			総合的な探究の時間で育成を目指す資質・能力の三つの柱と関連のある学習活動について単元名、学習内容を記入し、線で結びます。また、どの柱と関連が深いかを記入します。 資質・能力の三つの柱の表記 ・知識及び技能 → (知、技) ・思考力、判断力、表現力等 → (思、判、表) ・学びに向かう力、人間性等 → (学、人)			(例)数学Ⅰ データの分析(知、技)
10月	体育祭			(例)課題の設定 (2時間)	身近なものを題材にクラス(グループ)ごとのテーマを設定し、ブレインストーミング、ウェビング、KJ法的手法などを活用しながら、グループ内で発想を広げ、個人テーマの設定を行う。			
				個人シートの作成・発表 (4時間)	個人テーマについて、インターネットを活用して情報を収集し、ワープロソフトを使って個人シートにまとめる。			(例)○○大学留学生との交流(知、技)
11月	修学旅行		(例)情報の発信と共有 表計算ソフト、ワープロソフトを統合する。 (知、技)					学校外の教育資源(人的・物的)の活用について記入します。
12月				ポスター作成 (6時間)	班員の作成した個人シートを持ち寄り、グループテーマとして1つにまとめたポスターを作成する。	(例)ディベート 傾聴力、論理的思考力、客観的分析力を養う。 (思、判、表)		
1月				発表準備・中間発表 (5時間)	作成したポスターを使って、発表する際の工夫について班員のアイデアを出し合う。必要なものを作成しながら、発表のリハーサルを行う。			
2月				探究学習発表会 (2時間)	ポスターの発表会を全グループが行い、生徒同士がお互いにポスターおよび発表に関して相互に評価し合う。			
				単元のまとめ (1時間)	この単元の学習を振り返り、学習した感想や取組の反省、自己の変化などをまとめる。			
3月	卒業式							

1年間の主な行事を記入します。

総合的な探究の時間の学習に関連のある前年度の学習内容を記入すると、学年間のつながりも見えてきます。

(4) 単元計画の作成

全体計画と年間指導計画を基に作成しましょう。特に、年間指導計画との関連が大切です。

作成及び実施上の配慮事項として、生徒の興味・関心等に基づく単元を構想すること、及び教師が意図した学習を効果的に生み出していくこと、という二つのポイントを押さえることが大切です。

次のような手順で記入していきます。

- ① 単元名、単元設定の理由、単元目標を記入します。
- ② 単元の評価規準を記入します。評価規準は、年間や単元を通して、育成を目指す資質・能力に基づき、文末を「～している」あるいは「～しようとしている」として作成します。
- ③ 指導計画は、四つの過程に分けて記入します。
- ④ 指導計画の欄には、指導上の留意点と評価についても記入します。評価については、単元の評価規準に基づいて記入し、評価方法と評価の観点も記入します。

「総合的な探究の時間」第〇学年 単元計画			
〇〇高等学校 〇〇科 第〇学年			
1 単元名			
2 単元設定の理由			
3 単元目標			
4 単元の評価規準			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評 価 規 準			
5 指導計画(〇〇時間)			
時間	主な学習活動	探究の過程	○:指導上の留意点、◎:評価
		課題 の 設 定	○ ○ ○ ◎
		情 報 の 収 集	○ ○ ○ ◎
		整 理 ・ 分 析	○ ○ ○ ◎
			○

単元計画 記入上の注意

「総合的な探究の時間」第〇学年 単元計画

〇〇高等学校 〇〇科 第〇学年

1 単元名

どのような学習が展開されるのかを一言で端的に表現します。その際、生徒の学習の姿が具体的にイメージできる単元名や学習の高まりや目的が示唆できるような単元名になるように配慮します。

2 単元設定の理由

なぜこの単元を計画したのか、様々な要素からその設定理由を記述します。要素としては、生徒の実態、育てようとする資質・能力、教材について（内容とのかかわり）、教師の願い、地域や学校の特色、社会の要請、各学校における教育目標との関連、各教科・科目等との関連が挙げられます。

3 単元目標

どのような学習を通して、生徒にどのような資質・能力を育成することを目指すのかを明確に示します。各学校の目標や内容を視野に入れ、中核となる学習活動を基に構成することが考えられます。なお、目標の表記については、一文で示しても、箇条書きで示してもどちらでもかまいません。

4 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	評価規準については、年間や単元を通して、育成を目指す資質・能力に基づき、文末を「～している」あるいは「～しようとしている」として作成します。 知識と技能の両方の観点を入れる。 探究の四つの過程と対応させる。 自分自身に関することと他者や社会との関わりの両方の視点にふれる。		

5 指導計画(〇〇時間)

時間	主な学習活動	探究の過程	○:指導上の留意点、◎:評価
	年間指導計画を参考に具体的に記述していきます。	課題の設定	○ 活動における指導のポイントや、関連する教科・科目等の学習内容及び評価の仕方など、全体計画や年間指導計画を基に、具体的に記述していきます。 ◎単元の評価規準(評価方法)【評価の観点】
		情報の収集	○ (評価方法の例) ・表現による評価:プレゼンテーション、ポスター発表、総合芸術等 ・言語活動の記録による評価:討論の様子、質疑の様子等 ・観察記録による評価:学習状況、活動状況等 ・計画的に集積したポートフォリオによる評価:論文、報告書、レポート、ノート、作品などの制作物 ・記述テストの結果による評価:課題設定や課題解決能力をみるようなもの ・生徒の自己評価や相互評価:評価カード、学習の記録等 ・第三者評価:保護者や地域社会の人々等によるもの
		整理・分析	
		まとめ・表現	(例) ◎伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。 (ポスター発表の様子・相互評価シート)【思考・判断・表現】

4 オリエンテーションを実施しましょう

いよいよ探究活動の開始です。最初にオリエンテーションを実施しましょう。オリエンテーションは、生徒による自律的な探究活動のために大切な役割を果たします。この場において、これから始まる探究活動の趣旨や今後の活動計画等を生徒に伝えます。1年間の最初に位置付けるオリエンテーションと、一つの単元の開始時に位置付けるオリエンテーションとがあります。オリエンテーションにおいては、次の点に配慮することが大切です。

☆生徒による自律的な探究活動を促すために、この学習を通じて、何を学び、どのような力を付けるのか、学習の目標や最終ゴールを明確に示しましょう。それが今後の学習活動への動機付けともなります。

☆探究活動の意義をしっかりと生徒に伝えるために、オリエンテーションを行う形態や場所、講師や伝える内容など、綿密に計画を立てましょう。学校の施設以外に特別に場所を設定したり、専門の講師を招いて話を聞かせるなどの方法もあります。

取組例① 1年間の最初に位置付けるオリエンテーション

【指導のポイント】

- 1年間（あるいは3年間）の学習活動を通して、何を学び、どのような力を身に付けていくのかについて明確に示し、生徒が主体的に学べるような、また、関心、意欲をもって学習を続けられるような動機付けの機会としましょう。
- 学習したことを積み重ねていくためのポートフォリオとなるファイルを配付し、使い方の説明をするなども、ここで行うとよいでしょう。

【実践例1 課題探究論文作成に向けてのオリエンテーション】

- ・4月当初に、1年生全員を対象とし、大学のホールを借りて行う。
- ・学校が作成した探究活動のためのテキストを用いて、高校における学習の意義を理解させ、総合的な探究の時間を通して目指す「創造力を育てる」という目標について、学校独自の学力観を示しつつ、教員が説明する。
- ・課題探究論文作成という最終的な目標を提示し、今後の学習の流れを説明する。



大学のホールでのオリエンテーション

【実践例2 年間の探究活動の見通しを持たせるオリエンテーション】

- ・年度当初に、2年生全員を対象とし、体育館で行う。
- ・学校が作成した探究活動のためのテキストと年間計画表を用いて説明を行い、1年間の見通しを持たせる。
- ・希望するゼミを選択し、各ゼミごとに、探究活動を行い、昨年度と異なり、「仮説」を立て検証することを説明する。
- ・進路を見据え、大学受験科目についても触れる。
- ・修学旅行では「問い」を作り、班ごとにテーマに則した



体育館でのオリエンテーション

コース作りを計画することや、「問い」は「仮説」を立てて検証することを説明する。

【実践例3 キャリア教育に重点を置いた探究活動に向けてのオリエンテーション】

- ・ 4月当初、1年生全員を対象とし、学校の大講義室で行う。
- ・ 学校として目標の一つとなっている「キャリア学習（自分の将来を考えるとという探究テーマ）」について、3年間を通して目指す目標について教員が話し、学習への動機付けとする。
- ・ 1年次の学習内容と授業の取り組み方について、詳しく説明をする。
- ・ ポートフォリオとして使用するファイルの説明もこの時に行う。



大講義室でのオリエンテーション

取組例② 単元の開始時に位置付けるオリエンテーション

【指導のポイント】

- 総合的な探究の時間の1年間の流れにおけるこの単元の意味を理解させ、この単位を通して身に付ける力について、生徒に意識させましょう。
- グループワークやICT機器の使用など、この単元の学習活動で用いる方法や技能を取り入れ、体験させる機会としてもよいでしょう。

【実践例 クラス内でのプレゼンテーションに向けた単元におけるオリエンテーション】

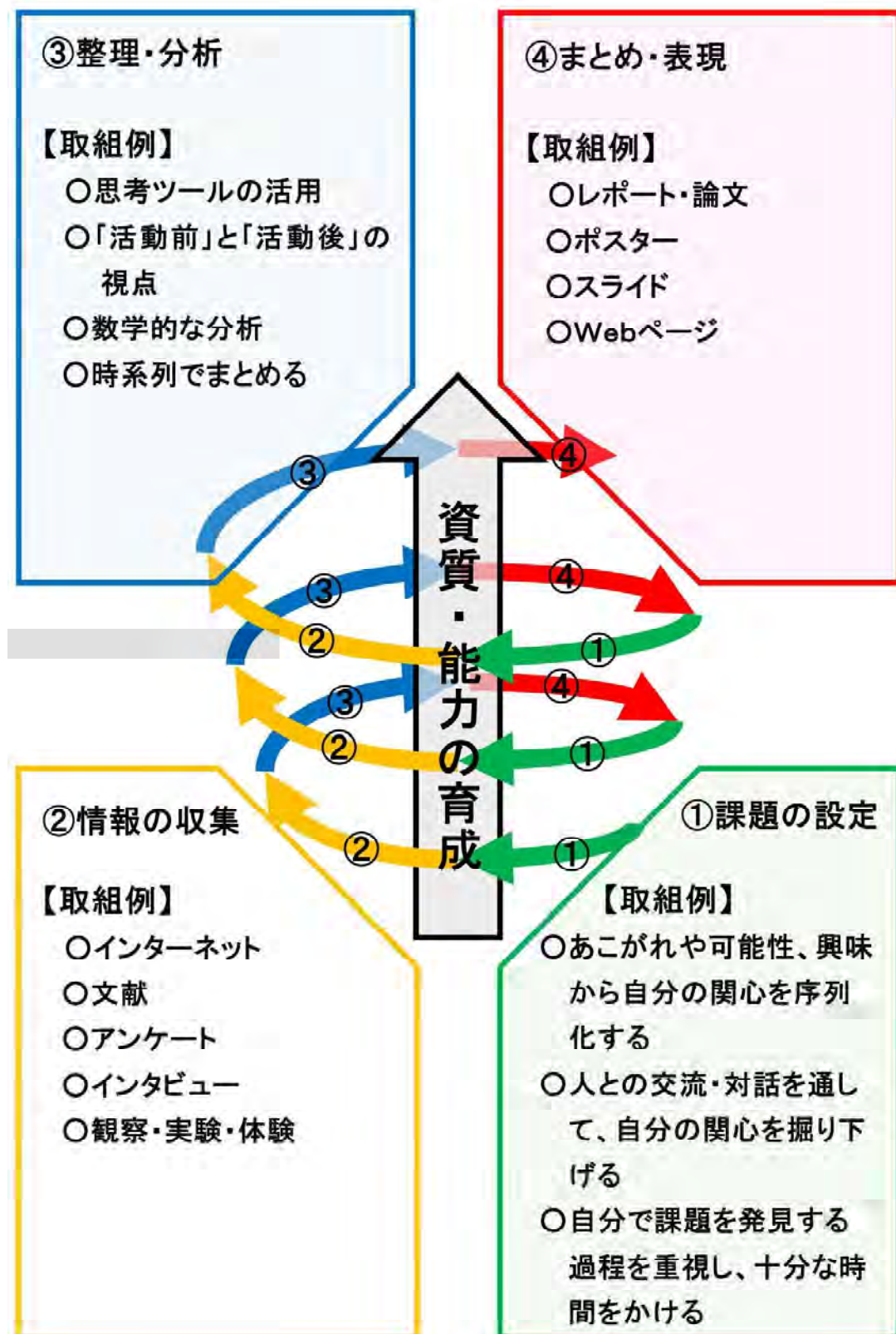
- ・ 「職業紹介プレゼンテーション」という単元（全10時間）の初めに、当該クラスの生徒を対象に、コンピュータ教室で行う。
- ・ スティーブ・ジョブズの講演の動画を視聴し、人生と職業選択について、そこから学べることをグループで話し合わせる。
- ・ グループでの話し合いの結果をICT機器を用いて共有させ、学び合いを深めさせる。
- ・ 人生と職業について導き出された事柄から「客観的な見方」を学び、それを意識しながら職業を調べて発表するという、この後の活動につなげていく。



コンピュータ教室でのオリエンテーション

5 探究の過程を進めましょう

総合的な探究の時間の本質は、「探究の過程」であり、生徒による自律的な学びの中で、問題解決的な学習が発展的に繰り返されていきます。ここでは、総合的な探究の時間における探究の四つの過程に基づいた指導の在り方を明らかにしていきます。



(1) 課題の設定

総合的な探究の時間にあつては、生徒が実社会や実生活と自己との関わりから、自ら課題意識をもち、その意識が連続発展することが重要です。生徒が自ら課題意識をもつためには、教師が意図的な働きかけをする必要があります。課題の設定については、次の点に配慮することが大切です。

- ☆人、社会、自然に直接関わる体験活動を重視しましょう。
- ☆事前に生徒の発達や興味・関心を適切に把握しましょう。
- ☆これまでの生徒の考えとの「ずれ」や「隔たり」を感じさせたり、対象への「あこがれ」や「可能性」を感じさせたりする工夫をしましょう。
- ☆課題の設定には、自分で課題を発見する過程を重視し、十分な時間をかけましょう。
- ☆各教科等で身に付けた知識・技能を積極的に活用しましょう。

取組例① 対象へのあこがれや可能性、興味から自分の関心を序列化し、課題を設定する

将来の進路と関連付けた自分の興味、関心を序列化して整理することで、追究したい課題を見いだします。

【指導のポイント】

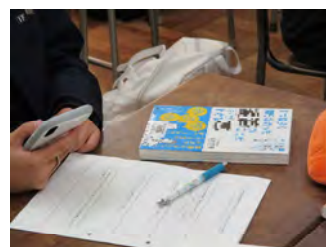
- 研究の進め方について、具体的な見通しをもたせます。
- 探究テーマは、調査が進むにしたがって絞るように指導します。
- 体験的活動（大学のオープンキャンパス見学等）を取り入れることも考えられます。

【実践例 自らの進路と関わりのある学部・学科調査を通し、課題を設定する】

- ・高校における学習の意義を理解させ、学問や学習への意欲をもたせる。
- ・夏休みの読書を通じて、興味のもてる複数の分野の本を読ませる。
- ・学問のジャンルに分かれたいくつかのゼミの中から、自分の興味や進路希望と結び付け、一番興味のあるゼミを選ばせる。
- ・ゼミの担当教員のもとで問いを立て、指導を受けながら自分の進路希望と関連した探究テーマを設定させる。

※研究テーマを絞っていった例

哲学、心理学、社会学の分野の本を数冊ずつ読書 → 研究ジャンルのの中から、心理学のゼミを選択 → 心理や脳科学の本の中から、人の意欲について書かれた本や論文を読む → 「人のやる気の引きだし方」というテーマの決定。



文献やインターネットによるテーマについての調査

取組例② 人との交流・対話を通して、自分の関心を掘り下げ、課題を設定する

進路選択等の課題設定の際に、人（保護者や働く人、卒業生等）との交流・対話を通して、現実的で切実な課題を設定します。

【指導のポイント】

- 関わる人とのやり取りは、学校が間に入り、依頼からお礼まで、丁寧、誠実に行います。

- 関わる人との交流に際して、マナーや態度など、事前に生徒に指導します。
- 自己の進路選択について、ゴールのイメージをもたせます。

【実践例 就職したい会社選びに向けて、働く人との交流・対話を通し、課題を設定する】

- ・興味のある業種、職種から話を聞きたい会社を決め、相手方にインタビューに行くことを提示する。
- ・その職業について事前に調べ、尋ねたいことを項目にまとめさせる。
- ・実際の職業人との交流を通し、自分の適性と合わせ、その職業に必要な力は何かを考えさせる。
- ・自ら希望する職業を明確にさせる。



職場先を訪問してのインタビュー

※生徒によるインタビューの質問項目

- ・警察官という仕事で大変なことは何か。
- ・警察官になろうと思ったきっかけは何か。
- ・仕事の中で一番大切なことは何か。
- ・菓子作りの際、気をつけていることは何か。
- ・高校時代にやっておくとよいことは何か。
- ・パティシエに必要な能力は何か。

取組例③ 自分で課題を発見する過程を重視し、十分な時間をかけて課題を設定する

グループによる課題研究に向けて、ブレインストーミング等で課題候補を探し、グループメンバーや教師と検討を繰り返すことで、課題を設定します。

【指導のポイント】

- 研究を行うためのツールや研究方法については、自由に選択し、使えるレベルになるまで、事前に指導しておきます。
- 何のために課題研究をするのか、目的意識を明確にもたせるようにします。
- 課題の検討の際には、現実性、効果性、意味があるかどうかなどについて、教師がアドバイスをしていきます。
- 課題の検討を繰り返すことで、課題を練り上げていくように指導します。



課題について話し合う生徒

【実践例1 学校や地域における問題を解決するテーマの課題を設定する】

- ・学校や地域など、身近な社会生活で困っている事柄や問題について、ブレインストーミングでテーマの候補を考えさせる。
- ・各人の関心テーマ、技能を考慮し、生徒を6・7人の班に分ける。
- ・グループ内で研究テーマの方向性を決めさせる。
- ・研究テーマの方向性について、教師の前でプレゼンテーションを行い、質疑応答を通して、より現実的、探究的なテーマとなるようにしていく。繰り返し行うことで、テーマの質を向上させる。



教師の前でのテーマのプレゼンテーション

【実践例2 研究論文の作成に向けてテーマを育てる】

- ・前時までに仮のテーマを準備しておき、研究テーマを育てるために、これから行う探究活動を最終的にどのようにまとめるかを具体的にイメージさせる。
- ・現段階のテーマで探究活動を続けたときの研究論文の全体像を階層つき箇条書きの形で仮のアウトラインとしてまとめ、研究を進める上で、現在のテーマをどのように展開させるべきかを検討させる。
- ・これから研究を進める上で、その方向性、研究性、実証性等を検討し、研究テーマで修正が必要なところはどこか、どのように修正するかを考えさせる。また、ゼミのメンバーと情報交換をさせる。



研究論文の構想を練る生徒



友達と情報交換をする生徒

取組例④ 身近で起きていることが、世界で起きている諸問題とつながっているということに気付かせて課題を設定する

世界規模で起きている問題が、自分達の身のまわりでも同じように起きていることに気付かせ、身近な問題としてとらえることで、課題設定につなげます。

【指導のポイント】

- まず、ベン図を活用して、自分の考えを可視化させます。
- 身近なところで起きている事柄は、世界規模で起きている問題ともつながっているということを理解させるとともに、それぞれの事象を自分事化できるようにします。
- 「発散」で視点を広げ、「収束」で多くの情報を絞り込みます。絞り込みは複数の視点にまたがることもあります。この2つの思考過程から課題を設定します。

【実践例 SDGsのテーマの中から興味・関心のあるテーマ課題を設定する】

- ・SDGsに地域や地元という言葉を入れると、身近な課題になることに気付かせる。(〇〇市の環境問題、〇〇市のゴミ問題など)
- ・研究テーマの候補をSDGsの観点とマッチングしてみる。
- ・自分の研究テーマ候補をもう一度見直す。



友達との情報共有

(2) 情報の収集

課題意識や設定した課題を基に、観察、実験、見学、調査、探索、追体験などを行い、課題の解決に必要な情報を収集します。目的を明確にし、情報収集を自覚的に行うことが大切です。また、体験を通した主観的で感覚的な情報だけでなく、数値化された客観的な情報などを幅広く多様に収集していく必要があります。情報の収集においては、次の点に配慮することが大切です。

☆知りたい内容を明確にしましょう。
 ☆それぞれの収集方法のメリット・デメリットを考えて選びましょう。
 ☆収集方法を変えたり、別の角度から集める等、たくさんの情報を収集しましょう。
 ☆収集した情報を、適切な方法で蓄積しましょう。

主な情報収集方法とそのメリット・デメリット

	メリット	デメリット
インターネット	情報量が多い。 最新の情報が得られる。	情報が多すぎて整理が大変。 信憑性の低い情報も多い。
文献	情報の信憑性が高い。 情報が深い。	最新の情報は入手しにくい。 必要な文献が手に入らないことがある。
アンケート	知りたいことが聞ける。 一度にたくさんのデータが集められる。	適当に回答されることがある。 設問の設定が難しい。
インタビュー	生の声を聞くことができる。 疑問に思ったことがすぐに確認できる。	聞きたいことを整理しておかないと必要な情報が得られない。
観察・実験・体験	確かな情報を得ることができる。	目的をしっかりと持って行わないと必要な情報が得られない。
講演会・セミナー	専門家の話を直接聞くことができる。 講師への質問が直接できる。	専門的な内容で講演の内容が難しすぎる場合がある。

取組例① インターネットで情報収集をする

インターネットは様々な情報を手軽に入手することができます。インターネットでの情報収集のデメリットを理解した上で適切に利用することで、たくさんの情報を取り出すことができます。

【指導のポイント】

○情報の信憑性

Web ページに記載された情報が確かな情報であるかどうか、判断することが大切です。Web ページの発信



検索サイトを使っての情報収集

元をしっかりと確認させるようにしましょう。

○著作権等への配慮

Web ページ上のは制作物にあたるため、むやみにコピー＆ペーストをすることはできない等、著作権等への指導も十分に行いましょう。

○情報モラルの育成

インターネット上には様々な危険（個人情報、ウィルス感染等）も存在します。事前に情報モラルの指導をしておきましょう。

○Web ページのアドレスの記録

根拠資料のために検索したWeb ページのアドレスを記録することを指導します。

【実践例 タブレット等を使った情報収集】

- ・グループで利用できる台数のタブレットを活用する。
- ・レンタルWi-Fiを活用し、PC室ではなく普通教室等でも、タブレットやスマートフォンを利用して情報収集を行わせる。



タブレットを使つての情報収集

取組例② 文献で情報収集をする

文献はとても信憑性の高い資料です。図書室や図書館にはたくさんあります。目的に合った文献を探す方法を身に付けておくことで、より有効的に活用できます。

【指導のポイント】

○目的の文献の探し方を指導

日本十進分類法やコンピュータ、図書館ネットワーク、参考文献リスト等、文献の探し方を指導しておきましょう。

○著作権への配慮

文献の内容には必ず著作権があります。出典元等を確認し、引用する場合は表記の仕方等を十分に指導する必要があります。



文献での調査や出典元の確認

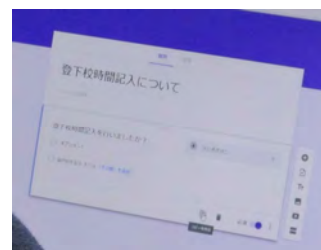
取組例③ アンケートで情報収集をする

多くの人々の意見を聞いて、その傾向を知りたいときに行います。知りたい内容を明確にし、簡潔に質問するようにします。質問の仕方や対象によって結果が異なるので、しっかりと計画を立てることが大切です。

【指導のポイント】

○調査用紙作成上の留意点

- ・調査目的を明確にし、目的に合わせて調査対象を決めさせましょう。質問は精査し、わかりやすく答えやすい質問文にし、記述式の質問はできるだけ少なくなるように指導しておきましょう。



Web ページ上で行うアンケートの作成

- ・質問は、選択式などの単純な質問から記述式などの質問になるような構成となるよう、指導しておきましょう。

※調査目的や調査対象によっては、Web ページ上でアンケートを行うことも有効である。

取組例④ インタビューで情報収集をする

必要としている情報について、書籍やインターネットでは得られない生の声を聞くことができます。質問を精査し、事前に十分な調べ学習をしておくことで、必要な情報を直接得ることができます。

【指導のポイント】

○インタビューの留意点

- ・何を知りたいのかを明確にして、質問内容を十分に吟味させましょう。
- ・展開によっては臨機応変に対応しなければならないため、十分な下調べをするように指導しておきましょう。

○事前の調整

生徒がアポイントメントをとる前に、インタビューを行う趣旨を相手方に伝えておきましょう。

※調査目的や調査対象によっては、Web ページ上の質問コーナーや電子メール等を利用することも有効である。



インタビューによる情報の収集

取組例⑤ 観察、実験、体験で情報収集をする

下調べを通して疑問に思ったことや予想を立てたことを確認することができます。実際に自分自身で見たり聞いたり感じたりした情報も得ることができます。

【指導のポイント】

○目標の明確化

観察・実験・体験を行う目的が明確になるように指導しましょう。

○データの信憑性を高める

実験等のデータを取る場合、繰り返し行うことでより信憑性のあるデータになることを指導しておきましょう。

○記録

気が付いたことや気になったことは記録させるようにしましょう。また、事実と感想は分けて記録させるようにしておくことが大切です。



実験を行ってのデータ収集

取組例⑥ 講演会やセミナーで情報収集をする

講演会やセミナー等で、専門家から直接、体験や研究成果を聞くことで、情報を収集することができます。

【指導のポイント】

- 課題意識を明確にして講演会に臨みます。
- 探究活動に位置付くようにし、得られた情報を事後の活動に活用します。
- 適切な講師を選定し、十分な打合せを行います。

【実践例 企業人を講師として招いて講演会を行う】

- ・講演会を行うにあたって生徒に対し事前にねらいや目標を明確に伝え、全員が課題意識をもって講演会に臨むように準備させる。
- ・講演を聞かせるだけではなく、体験的な活動を組込むように事前に講師と打合せを行っておく。
- ・得られた情報や考えたこと等を記録させる。



講演会を通しての情報収集

(3) 整理・分析

整理・分析の場面は、収集した情報を処理し、再構成する場面と考えることができます。様々な方法で収集した情報を種類ごとに分類したり、細分化し因果関係を導き出したりして分析します。こうして自らの考えを明らかにしていく過程は、思考力を発揮する場面であり、こうした学習活動が、思考力を育成していきます。整理・分析においては、次の点に配慮することが大切です。

☆どのような情報が、どのくらい収集できたかを把握しましょう。

☆どのような方法で情報の整理・分析を行うのかを考えましょう。その際、「比較する」「分類する」「序列化する」「関連付けする」など、思考との関連を意識しましょう。

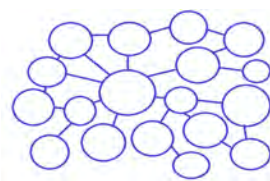
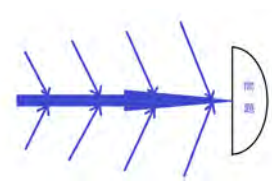
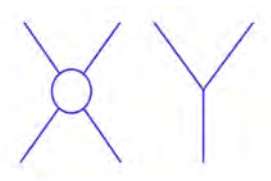
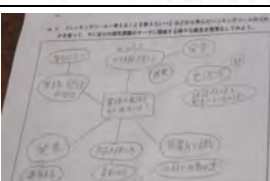
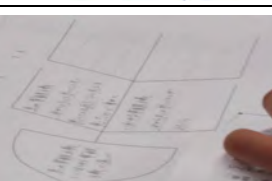
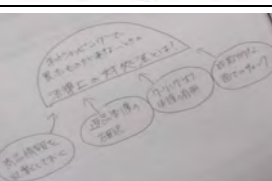
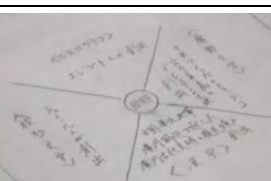
取組例① 思考ツールを活用し、目的に応じて整理・分析する

収集した情報を整理・分析する際、思考ツールを活用することで、可視化することが思考の助けとなります。なお、思考ツールは課題の設定においても用いることができます。

【指導のポイント】

- 思考ツールは、目的に応じて、使い分けさせましょう。
考えを広めたり、多角的に見つめたりする『拡散思考』タイプと、関連付けて整理していく『収束思考』タイプとの、大きく二つに分けられます。

【実践例 自分が集めた情報を思考ツールを使って整理・分析する】

イメージマップ	フィッシュボーン	クラゲチャート	Xチャート・Yチャート
調べる事項について 発想を広げる	調べる事項について 発想を広げる、整理する	理由付け、関連付けて 要約する	いくつかのまとまりに 分類する
			
			

取組例② 「活動前」と「活動後」の視点で情報を整理・分析する

情報を整理・分析する中で、情報を収集する前後で生徒自身の見方や考え方が変わることがあります。「活動前」と「活動後」を比較し、分析することで、生徒が自らの変容を自覚して捉えることができるようになります。振り返りが自己評価の力にもつながります。

【指導のポイント】

○自己の変容に気付かせることが大切です。

体験で獲得した情報を言語化し、記録しておくことで、自分の変化や成長などを振り返り、成長の実感を自覚させることができます。

○「活動前」と「活動後」の振り返りの視点を明確にしておきましょう。

振り返りの視点を明確にしておくこと、事前と事後での比較がしやすくなります。前後を比較・分析することで、自己の成長を確かめることができます。

【実践例 1 職業人インタビューの前後の意識の変化を分析する】

「職業人インタビューをする前」と「職業人インタビューをした後」との自分の職業観・勤労観の変化を分析させる。

なぜ？ ・警察官の仕事に興味があるから	適性は？ ・体力がある ・正義感が強い	→→→	なぜ？ ・町の安全を守るために貢献したい	適性は？ ・協調性がある ・モラルが高い
職業人インタビュー・前			職業人インタビュー・後	

【実践例 2 職業選びに対する意識の変化】

グループごとに友達と相談しながら求人票から将来、就職を希望する職業を選ばせる。たくさんの求人票、友達の話し合いから、職業を選んだ理由が変化する。ワークシートに職業を選んだ理由を書くことにより、生徒自身が自らの

変容を自覚させる。

職業を選んだ理由

- ・給与が高い
- ・有休が多い
- ・手当がよい

求人票検索・前

→→→

職業を選んだ理由

- ・興味がある
- ・やりがいがある

求人票検索・後

取組例③ 統計的な手法により整理・分析する（表やグラフ等による分析）

調査したり収集したりした情報を、表やグラフなどの目に見える形に表して整理・分析してみると、事象の特徴を客観的に捉えたり、事実や関係を把握したりすることができます。また、そこで得た情報は、新たな自分の考えや主張の根拠となります。

【指導のポイント】

○効果的な表やグラフを利用しましょう。

表やグラフなどの特徴と自分たちの主張などを考え併せ、資料として効果的な整理の仕方を工夫しましょう。

【実践例 調べた結果をグラフで表し、分析する】

- ・棒グラフの例：棒の高さで、変化を比較する。
 - ・折れ線グラフの例：増減変化を示し、変化の傾向を読み取る。
 - ・円グラフ・帯グラフの例：全体の中での構成比をみる。
- 統計データ等の情報提示方法として効果的である。



円グラフを用いた
プレゼンテーション

取組例④ 時系列でまとめて、整理・分析する

調査、収集した情報を時間軸で並べ、整理することで、変化や転換点に気付いたり、手順を明らかにしたりすることができます。時間軸の視点に他の視点を併せることで、分析に奥行きが出てきます。

【指導のポイント】

○ICTを活用することで、言語化された情報に加え、映像資料等、多様な資料を時系列で表現することもできます。

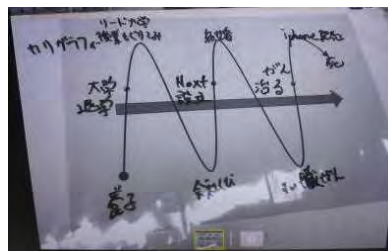
○過去から現在への視点のみならず、今後の取組や可能性で整理することも考えられます。

【実践例 ある人物の生涯を時間軸を用いてまとめる】

- ・ある人物の生涯について得られた情報を付箋に書き出し、時系列に並び替え整理する。
- ・その際、ターニングポイントとなった出来事に注目しながら、時系列とともに、人生の浮き沈みの視点から分析する。



付箋を使って並べ替える



時間軸の流れで整理する

取組例⑤ メリット・デメリットの視点で整理・分析する

生徒が考えた課題解決のためのアイディアや方法をすぐに実施するのではなく、メリットとデメリットの両面から吟味することで、より質の高いアイディアや方法へと高めていくことができます。

【指導のポイント】

- アイディアについての問題点を指摘したり、よさを発見したりするなどの思考の場があることによって、アイディアの質を高め、アイディアを共有していくことにつながります。
- アイディアや方法について、批判的な視点や建設的な視点をもつことも大切です。
- メリットとデメリットのどちらが多いかでアイディアのよさを判断することも考えられます。

【実践例 付箋を用いたメリット・デメリットの分析】

- ・班（グループ）ごとの活動とする。
- ・各自、付箋にメリット・デメリットを書く。
（1枚につき1項目）
- ・デメリットの付箋を順番に貼り、班で共有する。
- ・メリットの付箋を順番に貼り、班で共有する。
- ・課題に対し、メリット・デメリットを吟味しながら解決方法を分析していく。



付箋を活用した話し合い

(4) まとめ・表現

情報の整理・分析を行った後、自分自身の考えとしてまとめたり、それを他者に伝えたりする学習活動を行うことで、自身の考えが明らかになったり、課題が一層鮮明になったり、新たな課題が生まれたりしてきます。探究活動の質の高まりや深まりが、ここに生まれます。以下に示した例のほかに、新聞作成、ものづくり、シンポジウムやパネルディスカッションを行う、報告会を開く等の方法があります。まとめ・表現においては、次の点に配慮することが大切です。

☆まとめたり表現したりすることが、情報を再構成し、自分自身の考えや新たな課題を自覚することにつながります。

☆相手意識や目的意識を明確にしてまとめたり、表現したりさせましょう。

☆伝えるための具体的な手順や作法を適切に身に付けさせましょう。

☆目的に応じて表現方法を選択して使えるようにさせましょう。

取組例① レポート、論文としてまとめ・表現する

自らが設定したテーマに基づいた調査結果等を、文章や図表等を用いた論文やレポートとしてまとめ、表現するものです。

【指導のポイント】

○手法や技法の学習をスモールステップで学ばせる

- ・まずは調べ学習で論文の書き方を学ばせ、次の段階から自己の研究につなげるなど、段階を踏んで学ばせるやり方は効果的です。
- ・研究計画の立て方、文献調査の方法、論文の書き方など、段階ごとに丁寧な指導をすることで、生徒は研究を着実に進めていくことができます。

○まとめ・表現の先にもある学び

できあがったレポートや論文を発表し合い、共有する場をもつことで、研究の発展や学び合いにつなげることもできます。

【実践例 ゼミに所属し、調べたことをレポートにまとめる】

- ・研究の流れを理解する。
- ・夏休みの読書を通じ、研究ジャンルの中から分野を選ぶ。
- ・研究テーマを考え、所属ゼミを決める。
- ・読むための技能（情報収集、文章要約、事実と意見の違い等）を学ぶ。
- ・考えるための技能（思考ツールの利用方法）を学ぶ。
- ・ゼミ内で調査テーマの検討をする。
- ・書くための技能（原稿用紙の使い方、調査レポートの書き方）を学ぶ。
- ・ゼミ内で中間報告を実施する。
- ・調査結果をレポートにまとめる。



ゼミ内のグループによる
調査テーマの検討

取組例② ポスターとしてまとめ・表現する

ポスター形式（及びそれに類似したもの）で成果をまとめ、ポスターセッションとして表現するものです。ポスター作成を通じて、研究内容を振り返り、整理することができます。セッションにおいて、発表者と聞き手の間で直接、質疑応答等のやり取りができることがこの活動のメリットです。

【指導のポイント】

○ポスター作成上の工夫、注意点

タイトル、構成、説明、グラフや図、文字の大きさや配置等の指導は具体的に行っておきましょう。

○ポスターセッションを進める際の留意点

- ・時間の設定、発表と質疑の流れの確認、ローテーションの組み方、会場設営の計画等は事前に行っておきましょう。
- ・発表者や聞き手の作法の指導も事前に行っておきましょう。

【実践例1 職業人インタビューのまとめをクラス内で口頭発表する】

- ・職業人インタビューの成果を報告書にまとめる。
- ・口頭発表の内容を考え、発表用の原稿を作る。
- ・掲示されている自分の報告書の前で、一人ずつ口頭発表する。(グループを作り、同時に複数名が発表。) 聞き手は誰の発表を聞いてもよい。
- ・一人が発表後、聞き手からの質問に答える。これを繰り返し、全員が発表を行う。
- ・自分が聞いて一番良かったと思う人の報告書に投票する。
- ・投票数が一番多かった人を学年全体の発表会の代表者とする。



個人による口頭発表

【実践例2 調査レポートをクラス・学年内でポスター発表する】

- ・ポスター発表の方法及びポスターの作り方を学び、発表の日程を確認する。
- ・発表用の原稿を作り、ポスターを下書きする。
- ・下書きポスターでリハーサルを行い、修正箇所を確認の上、ポスターを清書する。
- ・発表の練習をし、質問に答えられるよう準備する。
- ・クラス内でポスター発表を行い、代表者を決める。
- ・クラスの代表者が学年で発表をする。



学年でのポスター発表

【実践例3 ICTを用いたグループ研究の成果を中学生に向けて発表する】

- ・グループ研究の成果をポスターにまとめる。
 - ・中学生に向けて、グループで発表する。
- 技術的知識のない相手への説明ということで、技術やアプリについて説明したり、専門用語を平易に言い換えたりできるよう、準備しておく。



中学生に向けての発表

取組例③ スライドとしてまとめ・表現する

調査や実践の結果を報告したり、考えを提案したりする際に、コンピュータを使ってスライドにまとめ、表現します。文字、写真、イラスト、グラフ、映像等を取り入れた様々な表現が可能であり、効果的な発表ができます。コンピュータを用いず、スケッチブック等で代用することもできます。

【指導のポイント】

○スライドの作成について

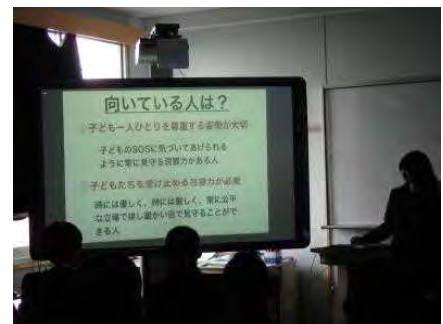
- ・発表時間を考慮し、ページ数の目安を伝えておくといよいでしょう。
- ・見やすさに配慮したスライドの作成について指導しておきましょう。（1枚のスライド上の情報量、文字の大きさや配置、グラフや図の効果的な利用等）

○発表上の留意点

聞き手側に立った発表となるよう指導しておきましょう。（アイコンタクトや声の大きさ、発表そのものの原稿を読むのではなく、メモを見て話す等）

【実践例 職業について調べたことをプレゼンテーションソフトを用いて発表する】

- ・スライドで伝える内容や方法を検討する。
- ・構成を考える。
- ・発表時間に合わせて、内容を絞り込む。
- ・スライドを作成する。
- ・リハーサルを行いながら、発表内容の改善を行う。
- ・発表する。聞き手及び教師との質疑応答を行う。
- ・聞き手は、新たに生じた質問及び改善に向けた提案を、あらかじめ設定されたフォームに投稿し、発表者はそれらを基に資料の改善を行う。



職業についてのプレゼンテーション

取組例④ Web ページとしてまとめ・表現する

Web ページを通して広く自分たちの学習の成果を発表することは、世の中の人々に直接学習の成果を見てもらい、問いかける機会となり、効果的な発表の手段となります。発信の際は、著作権、肖像権、個人情報等の扱いについて十分に配慮する必要があります。

【指導のポイント】

○情報モラルについて

- ・正しい情報を発信するよう指導します。
- ・事前に情報モラルについて学ばせ、発信する際には、著作権、肖像権、個人情報の扱い等、十分に配慮させましょう。

○情報の更新について

発信後、情報の更新について計画を立てて行うように指導しましょう。

【実践例 自校のホームページを作成する】

- ・何をどのように伝えるか、方針を決める。
- ・全体構成を考える。
- ・メニューと階層を考える。
- ・著作権と肖像権等、許諾申請及び了解を得る。
- ・Webページを作成する。
- ・関係者に実際に見てもらい、確認と許可を得る。
- ・公開し、更新作業をする。



グループによる内容の検討

6 学習状況を評価しましょう

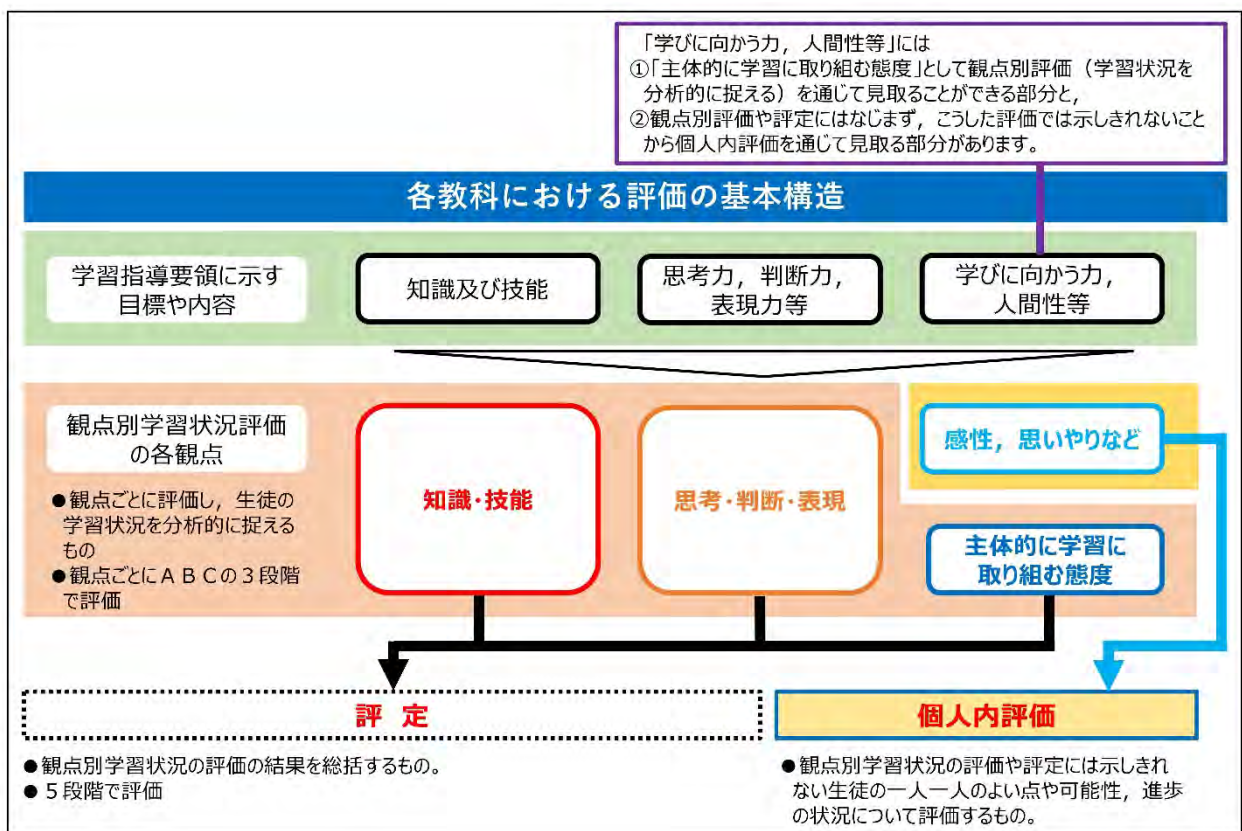
(1) 学習評価の充実

総合的な探究の時間については、学習評価の充実を図る上で次の点が重要です。

- ① 生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにします。また、各教科・科目等の目標の実現に向けた学習の状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにします。
- ② 創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、学年や学校段階を越えて生徒の学習の成果が円滑に接続されるように工夫します。

(2) 学習評価の基本構造

学習評価を設定するには、学習評価の基本構造を理解する必要があります。平成30年改訂で、学習指導要領の目標及び内容が資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科における観点別学習状況の評価の観点については、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理されています。



各教科における評価の基本構造

(「学習評価の在り方ハンドブック 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター」を基に作成)

(3) 生徒の学習状況の評価

① 「目標に準拠した評価」に向けた評価の観点の在り方

総合的な探究の時間の評価については、各学校が自ら設定した観点の趣旨を明らかにした上で、それらの観点のうち、生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、生徒にどのような資質・能力が身に付いたかを文章で記述します。

なお、学習指導要領が定める目標（※第1の目標）を踏まえて、各学校において具体的に定めた目標と内容に基づいて、以下を参考に定めることとしています。

※第1の目標とは、「自己の在り方、生き方を考えながら、よりよく課題を発見し、解決していく」ための資質・能力を育成すること。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。	実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。	探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。

この3つの観点に則して生徒の状況を見取ります。

② 評価規準の設定と評価方法の工夫改善

評価規準の設定については、各学校の全体計画や単元計画を基に、単元で実現が期待される育成を目指す資質・能力を設定します。この評価規準については、年間や単元を通して育成したい資質・能力に基づき、文末を「～している」あるいは「～しようとしている」として作成します。そして、各観点に則して実現が期待される生徒の姿が、単元のどの場面のどのような学習活動において、どのような姿として実現されるかをイメージします。

生徒の具体的な学習状況の評価方法については、信頼される評価の方法であること、多面的な評価の方法であること、学習状況の過程を評価する方法であること、の三つが重要です。

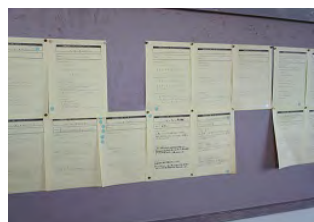
ア 信頼される評価の方法であること

- どの教師も同じように判断できる評価であること
- あらかじめ指導する教師間において、評価の観点や評価規準を確認すること
- 一単位時間で全て評価するのではなく、年間や、単元などの内容のまとまりを通して、一定程度の時間数の中において評価を行うこと

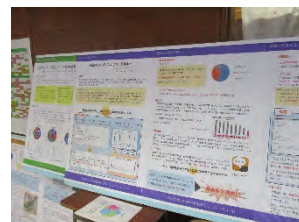
イ 多面的な評価の方法であること

○多様な評価方法や評価者による評価を適切に組み合わせること

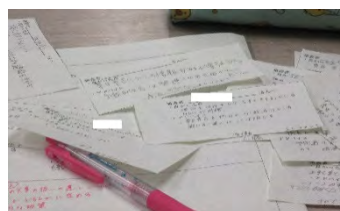
- ・プレゼンテーションやポスター発表、総合芸術などの表現による評価
- ・討論や質疑の様子などの言語活動の記録による評価
- ・学習や活動の状況などの観察記録による評価
- ・論文・報告書、レポート、ノート、作品などの制作物、ポートフォリオによる評価
- ・課題設定や課題解決能力をみるような記述テストの結果による評価
- ・評価カードや学習記録などによる生徒の自己評価や相互評価
- ・保護者や地域社会の人々等による第三者評価



掲示されたレポート



生徒が作成したポスター



友達からのアドバイス用紙

○生徒の資質・能力を育てているかできているかどうかを見ること

○成果物の出来映えをそのまま評価とするのではなく、その成果物から、生徒がどのように探究の過程を通して学んだかを見取ること

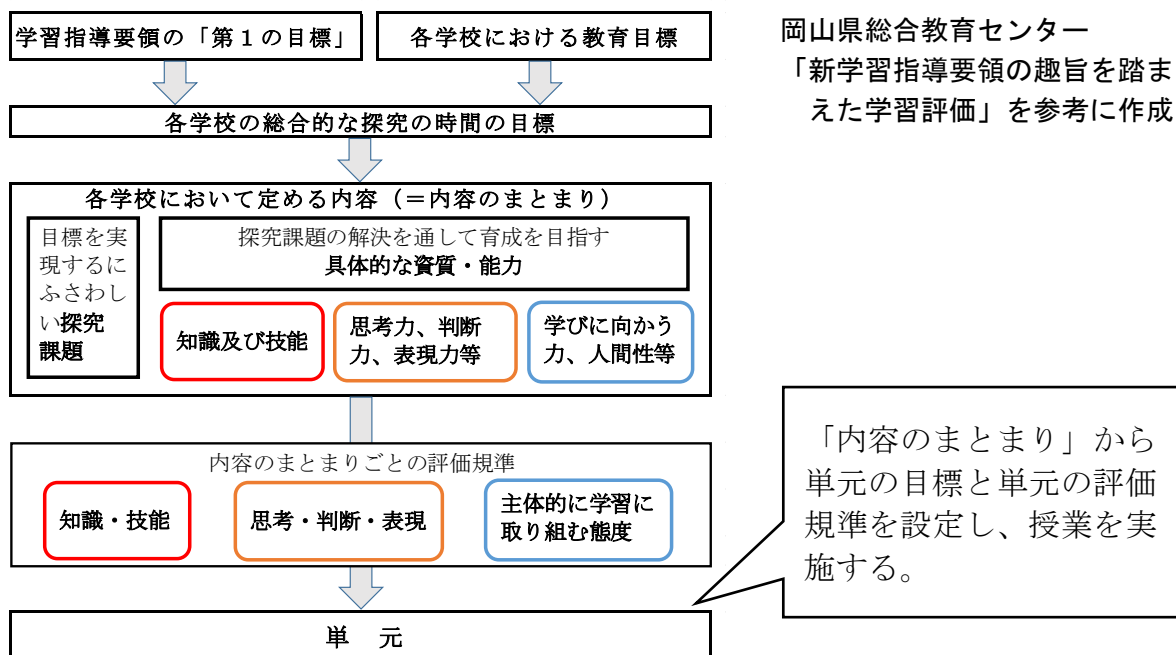
ウ 学習状況の過程を評価する方法であること

○学習活動前の生徒の学習状況の把握、学習活動中や学習活動終末の生徒の学習状況の把握と改善が各過程に計画的に位置付けられること

○全ての過程を通して、生徒の実態や学習状況を把握したことを基に、適切な指導に役立てること

(4) 内容のまとまりについて

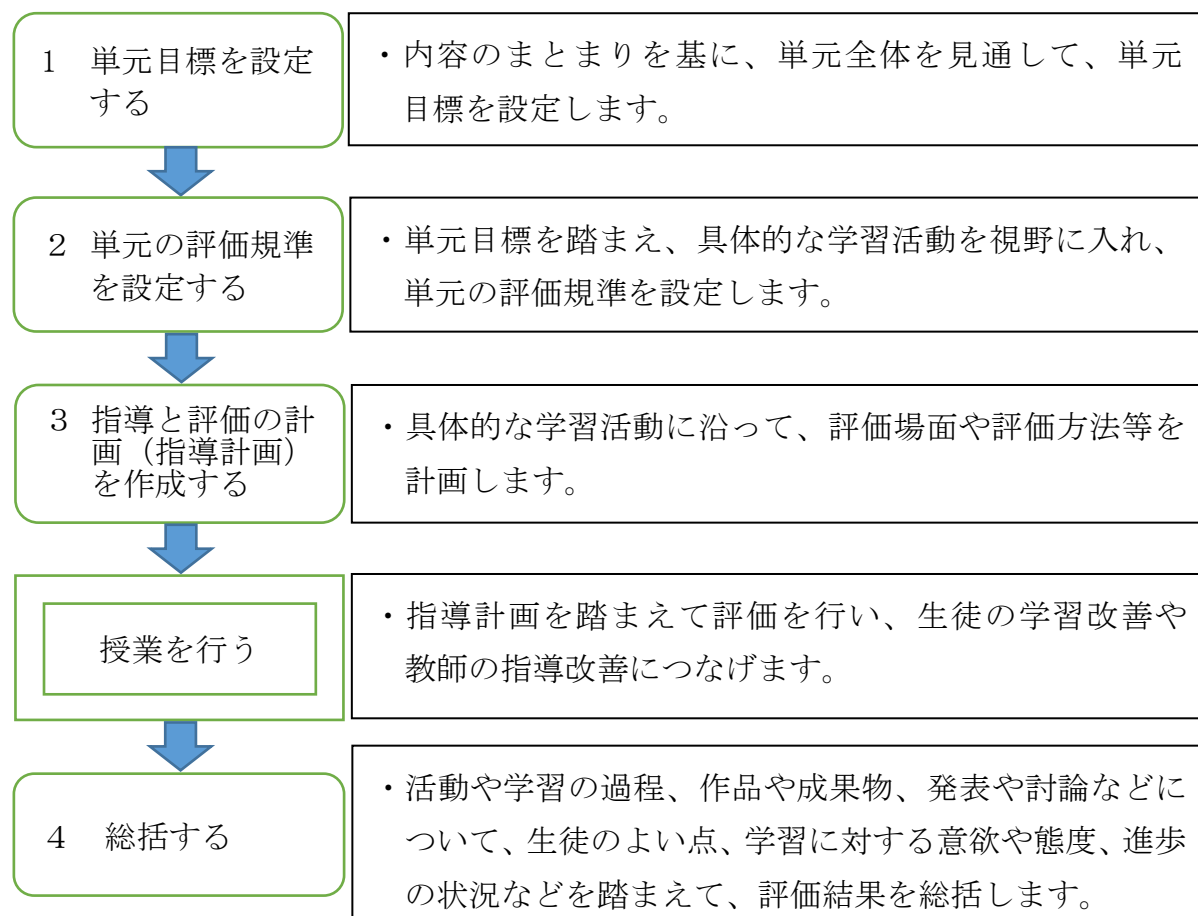
学習指導要領には、どの学年で何を指導するのかという内容を明示していません。そのため、各学校においては、学習指導要領が定める目標を踏まえ、各学校の総合的な探究の時間の目標及び内容を定めます。総合的な探究の時間では、各学校が定めた内容がそのまま「内容のまとまり」となります。「内容のまとまりごとの評価規準」は、「内容のまとまり」に記載した文章を活用し設定します。



(5) 学習評価の進め方について

単元における観点別学習状況の評価をするにあたり、まずは年間の指導と評価を確認することが重要です。その上で、以下のように進めます。

【評価の進め方】



(6) 単元の評価規準の作成のポイント

① 総合的な探究の時間における内容のまとまりの考え方について

各学校が定める総合的な探究の時間における内容は、目標を実現するにふさわしい探究課題と、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力によって構成されます（表1）。目標実現に向けて、生徒が「何について学ぶか」を表したものが探究課題であり、「どのようなことができるようになるか」を明らかにしたものが具体的な資質・能力です。

内容のまとまりについては、どのような学習活動を通して、どのような資質・能力を育成することを目指すのかを明確に示します。

各学校において定める内容			
目標を実現するにふさわしい探究課題		探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力	
例	現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題 (国際理解・情報・環境・福祉・健康など)	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	地域や学校の特色に応じた課題	他教科等及び総合的な探究の時間で習得する知識及び技能が相互に関連付けられ、社会の中で生きて働くものとして形成されるようにする	探究の過程において発揮され、未知の状況において活用できるものとして身に付けられるようにする
	生徒の興味・関心に基づく課題		
	職業や自己の進路に関する課題		
		学びに向かう力、人間性等	自分自身に関すること及び他者や社会との関わりに関することの両方の視点を踏まえる

【表1 総合的な探究の時間における内容】

② 単元目標及び単元の評価規準の作成

単元目標及び単元の評価規準は、以下の手順で設定します。

ア 単元目標は、「内容のまとまり」を基に、単元全体を見通して設定します。

イ 単元の評価規準は、「内容のまとまりごとの評価規準」を基に、具体的な学習活動から目指すべき学習状況としての生徒の姿を想定し設定します。その際、観点毎に枠内のポイントを参考にして設定します。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①概念的な知識の獲得 ②自在に活用することが可能な技能の獲得 ③探究の意義や価値の理解	①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現	①自己理解・他者理解 ②主体性・協働性 ③将来展望・社会参画

【研究協力校の例（県立大原高等学校）】

《単元目標》

自分が希望する事業の調査・研究およびインターンシップを通して、**社会で働くことの必要性や重要性に気づき、就業に必要となる能力と職業の適性について考えるとともに、キャリア学習の中で得た経験を将来の生活や行動に生かそうとする態度を養う。**

この例では、以下の4つの要素を構造的に配列して作成

- ・探究課題を踏まえた単元において中心となる学習対象や学習活動（～を通して）
- ・単元において重視する「知識及び技能」（～について**理解し**）
- ・単元において重視する「思考力、判断力、表現力等」（～を**考える**）
- ・単元において重視する「学びに向かう力、人間性等」（～に**生かす**）

《単元の評価規準》

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単 元 の 評 価 規 準	①社会で働くことの必要性や重要性に気づき、自分自身が希望する職業に必要な能力及び職業の適性について、具体的に理解している。 ①概念的知識の獲得	①自分自身が希望する職業に必要な能力及び職業の適性について考え、自己の課題を設定している。 ①課題の設定	①インターンシップを通して、希望事業所への自分自身の適性を知り、必要な能力を身に付けようとしている。 ①自己理解・他者理解
	②インターンシップにかかわる情報を適切に収集する技能を身に付けている。 ②自在に活用することが可能な技能の獲得	②インターンシップに向けて、Web検索による事業所情報の収集や電話依頼により、希望事業所の会社情報等の必要な情報を収集している。 ②情報の収集	②自分自身が有する能力を発揮し、希望事業所での実習に取り組もうとしている。 ②主体性・協働性
	③インターンシップを通して、コミュニケーション能力を高めることは大切であると気付いている。 ③探究の意義や価値の理解	③インターンシップ事前学習及び実際の体験を通して得られた情報を関連付け、希望する職業に必要な能力及び職業適性について整理・分析している。 ③整理・分析	③将来、社会で働くことを意識し、地域の産業社会の発展のために尽力しようとしている。 ③将来展望・社会参画
		④インターンシップを通して学んだことを、お礼状や報告書、ポスター・口頭発表用の資料に整理し、まとめ、表現している。 ④まとめ・表現	
	知識と技能の両方の観点を入れる。	探究の四つの過程と対応させる。	自分自身に関することと他者や社会との関わりの両方の視点にふれる。

(7) 評価結果の単位認定

生徒が学校の定める指導計画に従って総合的な探究の時間を履修し、さらにその成果が目標からみて満足できると認められる場合には、単位を修得したことを認定しなければなりません。

生徒には自らの成長を評価結果等から実感させることが大切であり、生徒一人一人のよい点や可能性に着目する個人内評価についても充実を図る必要があると同時に保護者にも学習状況等を説明する必要があります。例えば、学期ごとに通知表等で、学習活動に対する評価結果を文章で通知するなどが考えられます。

標準単位数は3～6単位であり、同じ学科においては、原則として同じ単位数の修得が認定されることになります。

また、学校がある単位数を定めた場合には、基本的には、その単位数が認定されるか、まったく認定されないかのいずれかになるものであり、生徒の学習の成果によっ

て、単位数が多く認定されたり、少なく認定されたりということはありません。

ただし、各教科と同様、総合的な探究の時間における学習活動についても、単位の修得の認定を学期の区分ごとに行うことができます。また、2以上の年次にわたって学習活動を行ったときには、年次ごとに単位の修得を認定するものとしています。

これらの場合には、一部の単位数の修得にとどまるということはありません。なお、例えば、特定の年度における授業時数は1単位（35単位時間）に満たないが、次年度に連続して同一の科目を設定するような場合などにおいて、2以上の年次にわたる科目の授業時数を合算して単位の認定を行うことも可能とし、単位認定は各年次ごとに行うことを「原則とする」としています。

このように複数の年次にわたって学習活動を行う場合には、十分な見通しをもった適切な指導計画の下で履修したうえで、その成果を適切に評価しなければなりません。

卷末資料

独自のテキストを活用した普通科の実践(長生高等学校)

「総合的な探究の時間(長高メソッド)」全体計画

千葉県立長生高等学校 普通科

生徒の実態	保護者の願い	地域の実態	地域の願い
地域の伝統校として卒業後に大学進学を目指す生徒が入学し、学習意欲も高い。部活動加入率も高く、文武両道に努力する生徒も多い。	生徒の受験学力だけでなく、就職後に役に立つ社会実践力やコミュニケーションの力を身に付けることを望んでいる保護者は多い。	近隣の地域では、過疎と高齢化が進んでいるところも多く、少子化による児童生徒数の減少も進み、本校の生徒募集にも影響を与えている。	外房地域の伝統校として、地域の優れた人材の育成が期待されている。

学校教育目標

- ・知・徳・体のバランスのとれた教育を目指すとともに課題解決に必要な思考力・判断力・表現力等の向上を目指す。
- ・進学指導重点校としての責務を果たし、将来、国際社会で活躍のできる人材の育成を目指す。
- ・すべての教科・科目において、授業改善に取り組み、「授業の長高」を目指す。

「総合的な探究の時間」の目標

- 長高メソッドの探究活動全体を通して、自身の社会的・職業的自立と大学の専門教育における学問との関連を考えながら、21世紀社会の中核を担うことのできる創造力を培うための次の資質・能力を育成することを目指す。
- メタ学力が築く基礎学力：礎となる知識と理解を得る力
 - 社会実践力：他と協力し目的を達成する力
 - 科学力：問題を発見し探究する力
- 探究の見方・考え方を働かせ、長高メソッドの探究活動を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- (1) 長高メソッドの基礎技能演習を通して、課題の発見と解決に必要な知識と技能を身に付け、新しい価値の創造の意義や価値を理解するようにする。
 - (2) 自らの進路志望と関連させながら問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
 - (3) 長高メソッドに、メタ学力の観点を生かしながら主体的・協働的に取り組むとともに、他と協力しながら創造力を生かして目的を達成する態度を養う。

「総合的な探究の時間」の内容

学年	第1学年	第2学年	第3学年
探究課題	学習法の科学Ⅰ 社会実践の科学Ⅰ 研究法の科学Ⅰ	学習法の科学Ⅱ 社会実践の科学Ⅱ 研究法の科学Ⅱ	学習法の科学Ⅲ 社会実践の科学Ⅲ 研究法の科学Ⅲ
探究課題 具の 体系的 決的な 資通 質して 能育 力成 を 目 指 す	知識 及び 技能	各学年で行われる長高メソッドの基礎技能演習において、課題の発見と解決に必要な知識と技能を以下のように身に付ける。 ・探究活動に必要な情報を適切に検索する方法を理解する。 ・思考を整理するツールを活用し、考えを深めるための方法を理解する。 ・適切な文章表現を行うための方法を理解する。 ・調査結果を適切に発表するための方法を理解する。	
	思考 力、 表現 力、 判断 力	長高メソッドの基礎技能演習を通して身に付けた知識と技能を生かし、自らの進路志望と関連させながら、学習法の科学においては自らの様々な学力向上について、社会実践の科学においてはそれぞれの協働活動について、研究法の科学においてはそれぞれのゼミでの探究活動について以下のように思考力、判断力、表現力を身に付ける。 ・実社会や実生活と自己との関わりから課題を立てるとともに、解決の見通しを持つことができる。 ・課題の解決のために適切な情報を収集することができる。 ・収集した情報を課題の解決の見通しにしたがって整理・分析することができる。 ・整理・分析された情報から、自分自身の意見や考え方をまとめるとともに、相手や目的に応じてわかりやすく表現することができる。	
	力学 及び 人に 間向 性か 等	・課題の解決のために、主体性と協働性を生かしながら探究活動に取り組もうとする。 ・新たな価値を創造するために必要な力を自覚するとともに、以下のメタ学力(メタ認知能力)を自ら身に付けようとする。 1. 学習対象を面白いと思う感性、2. 自分から学ぼうとする行動力、3. 学習ペースを考える思考力 4. 学び方考える計画力、5. 地道に反復を続ける努力、6. 学習法を改善する思考力	

学習活動	指導方法	学習の評価	指導体制
学習法の科学：メタ学力の概念を理解し、全ての教科の学習活動や探究活動にその概念を活用する。 社会実践の科学：長高祭文化の部の企画から実施まで、また修学旅行についての探究活動等を行う。 研究法の科学：文献調査レポートと課題探究論文の制作とポスター発表等を行う。	クラス活動については主に担任が指導し、ゼミ活動については学年職員に、学年外のアドバイザーも加えて指導を行う。 クラス活動、ゼミ活動ともにテキスト(長高メソッド)とワークシートを使い、各回の指導案に基づいて指導を行う。 学習活動の内容により、学年全体の講義、班別グループやテーマ別グループ単位で指導を行う。	探究活動の中で行われたワークシート、レポート、論文、発表、さらに生徒がオンラインポートフォリオに書き込んだ振り返り内容などを参照して総合的に評価する。	特別教室配当や実施内容の確認など、学年間の連携については各学年の担当者によって構成される総合的な探究の時間検討委員会で行う。 長高メソッドのカリキュラム開発は、教職員の中から担当希望者を募る方法(この指止まれ方式)によって構成された長高メソッドカリキュラム研究チームが担当する。このチームは総合的な探究の時間のカリキュラムの編成と、テキスト(長高メソッド)、ワークシート、指導案の作成を行う。

※1時間の授業を45分で実施

行事	英語	国語	情報	総合的な探究の時間(1単位39時間)		LHR	その他の教科、連携・交流等
4月	学習法オリエンテーション			学習法の科学(9時間)	学習法オリエンテーション(3時間) オリエンテーションで長高メソッドの学力観を理解する。 学習法ワークショップ(3時間) 以下の3つのテーマの課題について、グループで話し合った意見をまとめてクラスで発表を行う。1. 中学時代までの学習について考えよう2. みんなで学習時間の確保の方法を考えよう3. みんなで学習ルーティンワークを作ろう		
5月	グラフィッククオーガナイザー(シンキングツール)を使った長文読解演習(知、技)	話し合いや発表を通して小説の読みを深める演習(思、判、表)		学習法の科学演習(3時間)	テキストの読解とワークシートの作成を通して、以下の6つのメタ学力を理解し身に付ける。1. 学習対象を面白いと思う感性、2. 自分から学ぼうとする行動力、3. 学習ベースを考える思考力、4. 学び方を考える計画力、5. 地道に反復を続ける努力、6. 学習法を改善する思考力	文化祭準備の中で行われる議論、企画立案、作業等(思、判、表)	
6月			表計算ソフトを利用した、データ分析の方法(知、技)	社会実践の科学(8時間)	クラスにおける社会実践 基礎演習(2時間) 会議の進め方とイベントの企画立案について、テキストとワークシートで学び、グループで話し合う。 クラスにおける社会実践 文化祭実習(6時間) テキストを参考にしながら文化祭企画の原案を作り、クラスの役割分担とリーダー、サブリーダーの業務を割り振って、クラス企画の成功のために社会実践の演習を行う。		
7月	長高祭文化の部			研究法の科学オリエンテーション(2時間)	13ジャンルに分かれて実施する探究活動の説明を行う。自分の進路希望を考えながら研究ジャンルを選択し、探究テーマを考える。		
9月	グラフィッククオーガナイザーを使った長文読解(知、技)	評論文を読み、自分の考えをまとめる演習(思、判、表)		研究法の科学基礎技能演習(7時間)	「検索するための技能」 「読むための技能」 「考える技能」 「書くための技能」 「発表するための技能」 をテキスト、ワークシート、グループ学習によって学ぶ。		
10月	2年次文理・科目選択調査			研究法の科学文献調査中間報告準備中間報告(7時間)	図書館やインターネットで文献や論文の検索を行いながら文献調査のテーマを育て情報を収集して情報カードの蓄積を行う。これまでの調査内容をまとめ中間報告会で報告しゼミの担当教員やメンバーからアドバイスを受ける。中間報告の結果を受けてさらに文献調査を継続する。調査テーマの確定とともに技能演習で学んだ方法を活用して文献調査レポートの作成を行う。		
11月			グラフィッククオーガナイザーを使って新聞記事を整理する演習(知、技)	研究法の科学(22時間)			保健:課題研究テーマ学習(思、判、表)
12月							
1月				研究法の科学文献調査レポート提出(3時間)	文献調査レポートを完成させて提出する。レポートの内容ポスター発表の準備を行う。ポスター発表は、技能演習で学んだレイアウトの方法と効果的に自分の考えを伝える表現方法を参考に行う。		
2月				研究法の科学ポスター発表まとめ(3時間)	クラス内で文献調査のポスター発表を実施する。クラス内では発表についての相互評価を行う。1年間の活動を振り返り、来年度の探究活動につながる改善点を明らかにする。それぞれのジャンルの優秀作品は全校の発表会でポスター発表を行う。		
3月	文化部SSH発表会						

総合的な探究の時間 第1学年単元計画

千葉県立長生高等学校 普通科 第1学年

1 単元名

研究法の科学 (22時間)

2 単元設定の理由

この単元は、本校理数科で研究開発を行なっている課題研究のカリキュラム開発の成果を普通科にも還元するために設定されている。1年生生徒は大学のオープンキャンパス見学や学部学科調査を通して、自らの進路に関心を高めるとともに、大学で学ぶ学問ジャンルに準拠した13のゼミの中から主体的にテーマを選択する。そして文献調査を行い、文献の整理・分析を行いながらレポートをまとめるとともに、ポスター発表を行う。これらの活動は生徒自身の進路選択と関わりながら、将来様々な場面で創造力を発揮する意識を高め、2年次での探究活動をより深いものにするための準備として実施される。

3 単元目標

将来の進路選択に関連した人文科学、社会科学、自然科学に関わる13のゼミに分かれ、文献調査を行いそれをレポートにまとめ、ポスター発表を行うことを通して、創造力を培う力としての科学力(問題を発見し探究する力)を育成する。基礎技能演習では、探究活動のために必要な知識及び技能を身につけ、文献調査レポートの作成と発表を通して思考力・判断力・表現力を養うとともに、将来自分が専攻する可能性のある学問を自ら学ぼうとする姿勢と、創造力によって社会に貢献しようとする態度を養う。

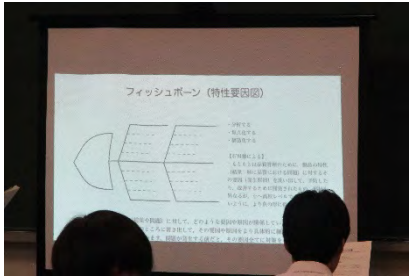
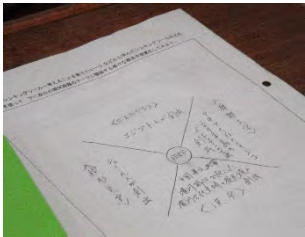
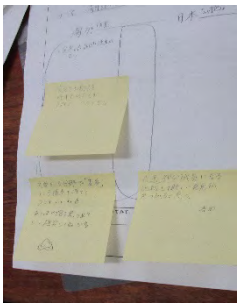
4 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評価 規準	文献の検索や論文の要約の演習を通して、文献の調査方法や論文の読み方を理解している。 様々なシンキングツールやグラフィックオーガナイザーを活用し、自分の考え方をまとめる方法がわかっている。 原稿用紙の使い方や論文にふさわしい文体、事実と意見を書き分ける方法がわかっている。	13のゼミから自分にあったジャンルを探し、課題を設定している。 探究テーマに即した文献を検索し、必要な情報を収集している。 設定したテーマに関する文献を選んで要約し、問題点を整理している。 課題を文献レポートにまとめ、ポスター発表によって自分の研究を適切な方法で表現している。	探究活動を通して、自分の将来の進路選択について考えようとしている。 中間報告やグループ活動を通して、クラスメイトの意見を参考にしながら協働して課題解決に取り組もうとしている。 文献調査レポートとその発表を行うことによって、さらに次年度の探究活動への意欲を持つとともに、将来に向けてこれからの問題解決に取り組もうとしている。

5 指導計画(22時間)

時間	主な学習活動	探究過程	○:指導上の留意点と◎:評価
2時間	自分の興味に基づいて研究ジャンルを選び、文献検索と読書、文献の要約作業をとおして、調査テーマを検討する。	課題の設定	○自分の将来の進路希望を考えさせながら、研究ジャンルを選択させる。 ○探究テーマは文献調査が進むにしたがって絞ることができるように指導する。 ◎自分の進路希望と関連した探究テーマを設定している。 (振り返りシート)【主】
7時間	図書館の使い方や文献・論文の検索の方法を学び、テーマ設定と課題解決のために必要な情報を収集する。	情報の収集	○目的に応じた図書館でのレファレンス方法を理解できるように指導する。 ○自分の必要とする論文資料をインターネットを活用して検索するとともに、インターネット資料の不確実さと正しい引用方法を理解させる。 ◎テーマ設定と課題解決のために必要な資料を収集している。 (振り返りシート)【知・技】【思・判・表】

7時間	中間報告やグループ活動を通して、クラスメイトの意見を参考にしながら自分のテーマに関連する文献・論文を要約し、問いに対する答えを明らかにする。	整理・分析	○中間報告の準備に向けて、自分が収集した資料の整理と分析が進展するように促す。 ○中間報告の際のゼミのメンバーや先生からのアドバイスに基づいて、さらに資料の分析を深められるように指導する。 ◎中間報告に向けて自分のテーマについての研究をすすめ、さらに内容を深めている。 (振り返りシート、文献調査レポート)【思・判・表】
6時間	自分で設定したテーマに基づいて文献調査の結果をまとめ、文献調査レポートを作成する。また、同じテーマのポスターを制作してクラスで発表を行う。	まとめ・表現	○レポートの書き方技能演習を参考に、文献調査レポートが作成できるように指導する。 ○ポスターの作り方と発表の技法を学び、聴衆に効果的に内容を伝えることができるように指導する。 ◎自分の課題を文献調査レポートにまとめ、適切にポスター発表を行うとともに、次年度の探究に向けて意欲を持って取り組もうとしている。 (文献調査レポート、ポスター発表評価、振り返りシート) 【知・技】【思・判・表】【主】

活 動 内 容	教 師 の 支 援
○今回の目標を板書等で確認する。 （シンキングツールについて、種類や使い方を理解し、グループで実際に使ってみる。）  ○グループで活動する。 ・長高メソッドの概要ページを読み、シンキングツールの種類、使い方について確認する。 ・各自のスマートフォンなどを使い、自分が使えそうなツールについてさらに詳しく調べてもよい。 ・配付済みの「フィッシュボーン」のチャート、または自分が選んだ任意のチャートに、自分の探究テーマに関わる内容を記入する。 ・今まで調べたことを書き込むことで、情報を整理していく。 ・その結果から考えたことを班内で報告し、お互いにアドバイスをする。 ・アドバイスは、言葉で伝えるだけでなく、よい点や、改善点などを付箋に書き、それぞれに渡す。   ○まとめを行う。 ・今回の学習全体を通じての振り返りを、アンケート回答フォームに書き込む。テキストとワークシートはファイルにとじておく。 ・次回の活動についての予告。	【演習 考えるための技能】 シンキングツールについて、種類や使い方を理解し、自分の研究テーマに関係する概念を視覚化することで、知識をより客観的に整理し、新たな思考を生み出すきっかけとする。 ・1 年生普通科全クラスで、同じテーマでクラスごとに活動を行う。 ・担任は共通して「長高メソッドテキスト」「学習指導案」「(生徒用) ワークシート」により授業を行う。進め方はそれぞれの担任により、導入部分で自分で用意した動画を見せたり、スライドを用いて説明したりなどの工夫をする。 ・テキストを読む時間、考える時間など、「タイム」を測って進める。 ・「シンキングツール」についての資料は、一週間前に、各生徒に配信しておく。 ・活動の最後にグループ内で互いに完成したツールを共有させ、付箋を用いてお互いにアドバイスさせたりするなど、それぞれ担任ごとに工夫をする。 ・教師は資料のアドバイスなど、各班を回りながら指導及び助言をする。 ・テーマを広げすぎないことを生徒たちに伝えていく。 ・生徒がアンケート回答フォームに書き込んだ振り返りは、授業が終わってすぐに、教員が生徒の学びの度合いや感想をその場で知ることができるので、たいへん有効である。一人一人の感想用紙の集約や集計の手間がないため、時間の節約にもなる。

キャリア教育に重点を置いた実践(大原高等学校)

「総合的な探究の時間」全体計画

千葉県立大原高等学校 総合学科

生徒の実態	保護者の願い	地域の実態	地域の願い
比較的落ち着いた生活態度であり、基礎学力の習得に熱心に取り組むと同時に、学校行事への参加も意欲的である。	将来の経済的安定を望む家庭が多い。公務員等の業種・職種に就いてほしいと考える傾向がある。	少子高齢化が進み、人口減少の傾向が強い。就職・就学のために都市部へ移住する若者が多い。	地域の高校からの就職を望んでいる。コミュニケーション能力を重視する傾向がある。

学校教育目標

知・徳・体の調和のとれた人格の完成を目指して、地域社会に貢献できる、心身ともに健康な生徒を育てる。

- (1)「文武両道」に励む生徒を育てる。
(2)地域に対して誇りと愛着を持ち、地域に貢献する生徒を育てる。

重点目標

- ①確かな学力の育成 ②系統的・継続的なキャリア学習の展開と進路実現 ③豊かな心を育む生徒指導の推進 ④活気ある部活動の推進

「総合的な探究の時間」の目標

探究の見方・考え方を働かせ、キャリア学習を通して、自己の在り方生き方を考えながら、産業社会への自らの適合を図るために、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)知識及び技能
キャリア学習に関わる探究的な学習の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、社会で働くことの意義や価値を理解できるようにする。
(2)思考力、判断力、表現力等
キャリア学習を通して自己に関わる問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3)学びに向かう力、人間性等
キャリア学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

※本校では、第1年次のキャリア探究活動を「産業社会と人間」で行っている。

「総合的な探究の時間」の内容				関連科目「産業社会と人間」
学年	第2学年		第3学年	第1学年
探究課題	自身のキャリア能力の探究		自身のキャリア課題の探究	自分の存在意義の探究
探究課題の体系的決を通過して能力を育成を目指す	知識及び技能	・インターンシップや校外学習を通して、産業社会で生きる職業人として必要な知識・技術・技能について理解する。 ・適切な方法で情報を収集する技能を習得する。 ・収集した情報を整理・分析し、まとめるための方法を習得する。	・進路学習や課題探究学習を通して、産業社会で生きる職業人として必要な知識・技術・技能及びその他の能力について理解する。 ・適切な情報を収集し、収集した情報の比較・分類、関連付けができる技能を習得する。 ・収集した情報を効果的に整理・分析し、まとめるための方法を習得する。	職業人インタビューや校外学習等のキャリア学習を通して、希望する職種についての知識を得るとともに、地域の産業活動に積極的に参加する意欲を育てる。
	思考力、判断力、表現力等	課題の設定 キャリア学習を通して、産業社会で生きる職業人として必要な能力を、自分自身が身に付けるために、自ら課題を発見し、解決に向けての見通しを持ち、計画を立てることができる。 情報の収集 キャリア学習の中で、自らの進路実現に向けた必要な情報を、適切な方法で収集することができる。 整理・分析 収集した多様な情報を比較したり、推論したりして考え、視点を定めて分析することができる。 まとめ・表現 調べたり考えたりしたことをまとめ、情報を伝えるべき相手に適切に、文字や言葉を通して表現できる。		学習活動 ・産業授業体験 ・校外学習 ・職業人インタビュー ・社会人・大学教員の講義 指導方法 ・専門科目の教員の指導 ・職業人、上級学校教員による講話 指導体制 ・総合学科推進部が企画立案する。 ・第1年次職員が実施する。
	学びに向かう力、人間性等	キャリア学習を通して、自分自身の個性や能力を客観的に捉え、産業社会で生きる職業人になるために必要な能力を、主体的かつ協働的に身に付けようとする。		

学習活動	指導方法	学習の評価	指導体制
下記の学習の事前学習・事後学習・発表会を行う。 第2年次の学習 ①校外学習(修学旅行) ②進路(進学・就職)ガイダンス ③インターンシップ 第3年次の学習 ①進路(進学・就職)ガイダンス ②進路探究学習 ③校外学習(異文化探索) ④課題探究学習 ⑤地域産業交流学習	下記のような指導方法を用いる。 第2年次の指導方法 ①学級単位での指導 ②学年全体での指導 ③個別指導 第3年次の指導方法 ①進路目標別班での指導 ②調査・研究方法別の指導 ③学級単位での指導 ④学年全体での指導 ⑤個別指導	活動への取り組みや成果を下記のように評価する。 ○ワークシート分析 ・学習内容の理解 ・学習の調査・計画 ・学習に対する熱意 ・報告書の作成 ○実習(面接)分析 ・電話による交渉・依頼 ・実習時の積極性 ・発表の的確性	総合学科推進部 が企画立案し、年次職員が主体となり実施する。 ○ 総合学科推進部 ・部長+各年次2名=7名で構成 ・キャリア学習の企画・運営 ・主な科目・行事 「産業社会と人間」(1年) 「総合的な探究の時間」(2・3年) 選択科目「一般教養」(3年) 職業人インタビュー(1年) インターンシップ(2年)

「総合的な探究の時間」(2単位) 年間指導計画

千葉県立大原高等学校 総合学科 第2年次

行事		現代文B	総合的な探究の時間		LHR	その他の教科、連携・交流等
前年度の学習	1年次の「産業社会と人間」		希望事業所の決定(2)	希望事業所を決める。		
	・産業授業体験: 農業・漁業・福祉の専門授業の体験を受講した。		希望事業所への依頼(2)	希望事業所に依頼電話をかける。		
	・校外学習: グループ活動による、首都圏散策。生徒自身が、訪問地(4件)と経路探索を行った。		履歴書の作成(4)	志望理由を明確にする。 簡易履歴書を作成をする。		
	・職業人インタビュー: 訪問範囲を首都圏全体に設定し、生徒自身が電話でインタビュー依頼を行った後、あこがれの職業人を実際に訪問し、直接話を聞いた。					
	・職業人・大学教員の講義: 千葉県内の専門職に就く職業人や大学の教授からの講義を受講した。					
	1年次の「社会と情報」					
	・デジタル情報と情報の活用: ブラウザで、校外学習および職業人インタビューの訪問場所や経路検索を行った。					
	・文書作成ソフトの利用: 文書作成ソフトで、校外学習および職業人インタビューの計画書や報告書の作成を行った。					
	1年次の「国語表現」					
	・文書表現の基礎: 職業人インタビューの志望理由などを相手にとって理解しやすくなるように作成した。					
4月	入学式					
5月						
6月						
7月						
8月						
9月						
10月						
11月						
12月						
1月						
2月						
3月						
卒業式						

「総合的な探究の時間」 単元計画

千葉県立大原高等学校 総合学科 第2年次

1 単元名

インターンシップ【業種・職種及び事業所についての調査・研究と職業適性の確認】

2 単元設定の理由

情報が生徒たちの身の回りに豊富にある現代ではあるが、自己の将来についての情報を検索する機会はない。そのため、希望する業種・職種への自分自身の適性について、深く考える機会が乏しいといえる。また、生徒たちにとって学校という守られた環境から見た実社会は、あまりにも遠く、想像することも困難である。しかし、時代の変化と同時に、業種・職種ばかりでなく、雇用形態や雇用環境の変化もめまぐるしく、正確な情報を選択・収集・処理・活用できる能力が求められている。本単元は、自らが就業を希望する業種・職種及び事業所について調査・研究を行った後、インターンシップを通して希望する業種・職種および事業所への自分自身の適性を確認し、就業意識を高めるとともに、進路実現に向けて具体的な課題を見つけ、必要な知識・技術・技能の習得へのきっかけにする学習を行う。

3 単元目標

自分が希望する事業の調査・研究およびインターンシップを通して、社会で働くことの必要性や重要性に気付き、就業に必要な能力と職業の適性について考えるとともに、キャリア学習の中で得た経験を将来の生活や行動に生かそうとする態度を養う。

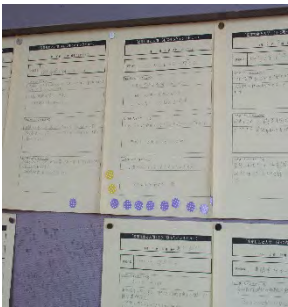
4 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①社会で働くことの必要性や重要性に気付き、自分自身が希望する職業に必要な能力及び職業の適性について、具体的に理解している。 ②インターンシップにかかわる情報を適切に収集する技能を身に付けている。 ③コミュニケーション能力の重要性を理解し、インターンシップを通して得た知識・技術・技能を整理し、まとめ、発表する方法がわかっている。	①自分自身が希望する職業に必要な能力及び職業の適性について考え、自己の課題を設定している。 ②インターンシップに向けて、Web検索による事業所情報の収集や電話依頼により、希望事業所の会社情報等の必要な情報を収集している。 ③インターンシップ事前学習及び実際の体験を通して得られた情報を関連づけ、希望する職業に必要な能力及び職業適性について整理・分析している。 ④インターンシップを通して学んだことを、お礼状や報告書、ポスター・口頭発表用の資料に整理し、まとめ、表現している。	①インターンシップを通して、希望事業所への自分自身の適性を知り、必要な能力を身につけようとしている。 ②自分自身が有する能力を発揮し、希望事業所での実習に取り組もうとしている。 ③将来、社会で働くことを意識し、地域の産業社会の発展のために尽力しようとしている。

5 指導計画(34時間)

時間	主な学習活動	探究の過程	○：指導上の留意点と◎：評価
4	希望事業所の決定(2) ・希望事業所を決める。	事前学習(課題の設定)	○生徒の能力や適性と選択した業種・職種との適性について助言する。 ○通勤方法などに無理がないかを助言する。 ○連絡可能な事業所であるかを生徒とともに確認する。 ◎自らが希望する職業を明確にしている。(ワークシート分析)【主】 ◎希望する職業に就くために必要とされる能力を調べている。(ワークシート分析)【思・判・表】 ◎希望する職種・業種に関する情報を調べている。(ワークシート分析)【知・技】
	希望事業所への依頼(2) ・希望事業所に依頼電話をかける。		○社会人として適切な言葉遣いができるように助言する。 ○教員が必ずそばにいて、可否に関わらず確認とお礼の意を伝えるように助言する。 ○所在地や連絡先および担当者を確認するように助言する。 ◎社会人として適切な言葉遣いをしている。(電話のかけ方分析)【知・技】 ◎会話を通して、インターンシップの概要を伝えている。(電話のかけ方分析)【思・判・表】 ◎必要事項を聞き取り、記録している。(ワークシート分析)【知・技】
12	簡易履歴書・実習記録簿の作成(8) ・志望理由を明確にする。 ・簡易履歴書を作成をする。 ・インターンシップの必要事項を調べる。 ・実習記録簿に必要事項を記入する。	事前学習(情報の収集)	○志望理由を具体的に示すことができるように助言する。 ○履歴書の記入方法について助言する。 ○事業所への確認が十分であったかどうかを確認するように助言する。 ○実習に必要な事項と内容を確認するように助言する。 ○必要事項をわかりやすいように実習記録簿に記入するように助言する。 ○通勤方法を調べるアプリケーションの使用方法を助言する。 ◎志望理由を具体的に示している。(ワークシート分析)【主】 ◎適切に書類等の作成している。(ワークシート分析)【知・技】 ◎電話交渉の結果が正確に記録している。(ワークシート分析)【知・技】 ◎実習記録簿に必要事項を正確かつ具体的に記載している。(実習記録簿分析)【思・判・表】

	名刺の作成(2) ・挨拶用の名刺を作成する。 社会人としての挨拶(2) ・挨拶や名刺交換等マナーを習得する。		○挨拶用の名刺を丁寧に作成するように助言する。 ◎名刺が正確かつ丁寧に作成している。(名刺シート分析)【知・技】 ○一般社会での挨拶ができるように助言する。 ○名刺交換時のマナーを身に付けられるように助言する。 ◎社会人としての一般的なマナーが身に付いている。(挨拶マナー分析)【知・技】
(18)	インターンシップ実施(3日間)	実施	○予定通りに勤務(実習)できているかを確認する。 ○事故なく、勤務(実習)できたかを確認する。
4	お礼状の作成(4) ・実習記録簿のまとめを行う。 ・お礼状の作成をする。		○実習記録簿に丁寧に記載されているかを確認し、必要に応じて書き直すように助言する。 ○実習の具体的な内容をまとめるように助言する。 ○誤字や脱字がなくお礼状に記載するように助言する。 ◎実習記録簿に実習内容を正確かつ具体的に記載している。(ワークシート分析)【思・判・表】 ◎お礼状を丁寧に作成している。(ワークシート分析)【思・判・表】
14	報告概要の決定(2) ・報告書のアウトライン案を作成する。	(整 理 事 ・ 後 学 習 ・ ま ま 報 告 書 ・ 作 成 現)	○報告書の形式や記載内容・順番について助言する。 ○実習での体験に優先順位をつけるように助言する。 ◎報告概要をまとめている。(ワークシート分析)【思・判・表】
	報告書の作成・口頭発表資料の作成(8) ・報告書を作成する。 ア A4版縦置き片面1枚にまとめる。 イ 原則として手書きで記入する。 ウ 画像は、印刷物を貼り付ける。		○実習の具体的な内容を項目ごとにまとめ、報告や発表用に整理・精選させる。 ○自身の経験が正確かつ効果的に伝わるように発表の練習をさせる。 ◎社会で働くことの必要性や重要性に気付いている。(ワークシート分析)【知・技】 ◎報告書が適切に作成している。(ワークシート分析)【思・判・表】 ◎口頭発表資料を適切に作成している。(発表資料分析)【思・判・表】
	学級内報告会(4) ・学級別に発表会を行い、学級代表を選出する。 (代表はキャリア学習発表会に向けて準備をする。)		○発表練習の成果を十分に発揮できるように、学級全体の環境作りを行う。 ◎口頭発表資料を利用して、適切に発表している。(発表の仕方分析)【思・判・表】

活 動 内 容	教 師 の 支 援
○本時の学習活動と学習の流れを確認する。 （各自の発表そのものは、自分のクラスで予め設定された班の自分の順番で行うが、他の生徒の発表については、どのクラスの、どの生徒の発表を聞きに行ってもよい。） ○生徒は廊下へ移動する。 各自、発表のための原稿と「見学の記録」用紙を準備。 ○発表する。（一人2分ずつ） ・1分発表、1分質疑応答。 ・発表は、出席番号順で10名1グループとなり、自分の出席番号の「1の位」が発表順となる。 ・自分以外の9名の発表を聞きながら、「見学の記録」用紙にそれぞれの発表について短いコメントを記入する。  ○教室にて振り返りを行う。 ・教室に戻り、自分が聞いた9名のうち、良かった1つを正式な「コメントシート」に書き（良かった点・アドバイスしたい点）、提出する。 ・コメントシートと引き換えに、担任から「いいねシール」を一つもらい、「コメントシート」に書いた生徒の報告書に、それを貼る。 ※「いいねシール」が多かった生徒は、代表として、この後の学年での発表会にて発表する。	【 職業人インタビューの「まとめ・表現」 】 この時間を通じ、自分自身がインタビューで得たことを友人に発表すると同時に、友人がインタビューで得た事柄を共有し、職業への関心を持たせ、これからの学びにつなげることを目指している。 ・本時の目標と各自の動き方及び注意事項について、生徒に確認させる。（本時の発表のローテーションについては、生徒に自分自身の発表の順番について事前に周知してある。） ・発表原稿は、事前に各自で書いておくように指導してある。 ・廊下側の壁には、これまでに生徒一人一人が完成させた報告書（「事業所名」と、「心に残ったインタビュー質問項目3つ」を記入したもの）が貼られてあり、生徒たちは事前に、どの発表を聞きに行くかを考えている。 ・どの生徒の発表を聞きに行ってもよいが、自分の順番近くになったら戻っているように指示する。 ・発表者は立つ、聞く人は座る、というルールのもと、発表させる。 ・「いいねシール」は、クラスにより色を変えてある。  

ICT機器を活用した情報科の実践(袖ヶ浦高等学校)

「総合的な探究の時間」全体計画

※本校では課題研究(4単位)のうち3単位を探究的活動に充てており、計画案では「総合的な探究の時間」に置き換えて表記している。

千葉県立袖ヶ浦高等学校 情報コミュニケーション科

生徒の実態	保護者の願い	地域の実態	地域の願い
- 部活動に8割以上が参加する。 - 行事に積極的に取り組む。 - 多様な進路、かつ進路選択に対して慎重である。	- 充実した高校生活を送ってほしいと願っている。 - 進路は、本人の自主性と学校の指導への期待が大きい。	- 学区における学力中堅層が進学してくる。 - 各進路選択では、地元志向が強い。	地域拠点校として発展し、地域の象徴的存在になってほしい。

学校教育目標

- (1) 心身ともに健康で、自他ともに愛し、基本的人権を尊重する平和で文化的な国家及び社会の有為な形成者として、真、美、善を求めて止まない人間性豊かな生徒を育成する。
- (2) 国際的な視野に立った民主的な社会人として必要な資質を身に付けさせ、主体的に問題を解決する能力、向上心を持ってたくましく社会を生き抜く体力と精神力を育む。

「総合的な探究の時間」の目標

- 探究の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通じて、自己の在り方生き方を考えながら、より良い社会の創造と発展に貢献する社会人として必要な資質・能力を次の通りに育成することを目指す。
- (1) 情報に関する様々な技術や手法について具体的に理解するとともに、課題の発見と解決に向けた探究活動を通して、相互に関連付けられた知識・技術を身に付ける。
- (2) 学校や身近な地域社会で生活をより豊かにするための課題を発見し、調査結果や実証実験等に基づいて整理・分析しながら解決策を探究していくとともに、課題解決までの過程を適切にまとめ・表現できるようにする。
- (3) 課題を解決するための探究活動を通して、情報技術の活用や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

「総合的な探究の時間(課題研究)」の内容

学年	第3学年
探究課題	地域や学校の特色に応じた課題
探究課題の体系的な資質・能力を育成を目指す	知識及び技能 - 自ら設定した課題を深く掘り下げ、探究する過程において、情報セキュリティや情報モラルに配慮した作業ができる。 - 情報機器を適切に活用して整理・分析・記録・評価する手法や意義について理解する。 - 課題を解決するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。 - 前提条件と結果を理解し、既知の知識と照らし合わせ、体系的知識として研究に対する取り組みを説明することができる。
	思考力、判断力、表現力等 - 問いかけの力・・・調査・発表において、提示された内容を鵜呑みにするのではなく、要因や根拠を求めて追究することができる。 - 情報活用能力・・・課題解決に必要な情報を分析し、類別して蓄積することができる。 - 論理的思考力・・・視点を定めて多様な情報を分析することができる。 - コミュニケーション力・・・相手や目的、意図に応じて論理的に表現することができる。
	学びに向かう力、人間性等 - 自分の意思で真摯に課題に向き合い、解決に向けた探究に取り組もうとする。 - 課題解決のために必要な知識や技能を身に付けようとする。 - 共同して研究・発表を行うことで養われる、自他のよさを認め、特徴を生かしながら、協働して解決に向けた探究に取り組むことを通じ、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする。

主に関連する科目

- 第1学年：情報コミュニケーション
【自分や社会を見つめる課題】
- 第2学年：情報コミュニケーション実習
【社会・他者へアプローチする課題】
- 学習活動
- 1、2年次は情報コミュニケーション、情報コミュニケーション実習の2単位のうち、1単位を利用して、調査・発表を中心とした探究活動に取り組む。
 - 1年次では、プレゼンテーマを【自己紹介→社会問題→職業調べ→社会問題→進路希望】と変遷させて実施し、情報を収集し、分析する能力を育成する。
 - 2年次では、説得プレゼン、ジグソー法を用いた修学旅行事前学習、ディベートを実施し、相手や目的に応じた情報を取捨選択する力、他者に働きかける力を育成する。
 - 2年次では、当該年度履修科目である「アルゴリズムとプログラム」でのプログラム言語の実習と関連させて、個人によるプログラム作品を企画・制作する。
- 指導方法
- 個人での調査とクラスでの発表をセットにした活動を中心に行う。
 - 各単元での発表時は、生徒間での質疑応答を経て、改善レポートの作成とICTでの共有を通じ、学習内容の共有化を図る。

学習活動	指導方法	学習の評価	指導体制
○週3時間を利用して、課題研究活動に取り組む。 ・課題の設定(4～5月) ・研究活動(6月～11月) ・中間発表(10月) ・最終ポスター発表(11月) ・卒論執筆(12月～2月)	○興味・関心に応じた6・7人のグループ単位で協働的な研究活動を行う。 ○割り当てられた担当教職員を軸に、対話を中心としたグループ別支援を行う。 ○卒論執筆においては、添削を中心にした個別支援を行う。	○活動過程の観察による評価 ○ワークシート・中間報告書の評価 ○研究報告ポスターの評価 ○発表会での評価 ○卒論の評価	○情報科の教職員を中心に他教科の教員も含めて6・7人で班別指導を行う。 (研究の方向性が固まる7月頃までは担当は決めない) ○2学年の担任も指導に参加し、翌年度に備え、班編成や研究の流れを把握する。 ○全学年 進路指導部、学年次団と連携し、行事に即した計画を作成する。

「課題研究（総合的な探究の時間）」（3単位） 年間指導計画

袖ヶ浦高等学校 情報コミュニケーション科 第3学年

※本校では課題研究（4単位）のうち3単位を探究的活動に充てており、
計画案では「総合的な探究の時間」に置き換えて表記している。

○情報コミュニケーション（1年）、情報コミュニケーション実習（2年）・・・情報の収集・整理・分析・発信能力の養成、問いかける力の養成
○産業と社会（1年）・・・情報モラル、情報セキュリティ、知的財産権、情報システムについての学習、表計算ソフト、ワープロソフトの活用
○数学Ⅰ（1年）・・・データの分析の学習
○アルゴリズムとプログラム（2年）・・・プログラミング言語（C言語）の学習
○現代社会（2年）・・・主権者教育、今日の社会的課題の学習
○家庭基礎（2年）・・・環境問題・消費者教育

行事	情報テクノロジー	情報メディア	課題研究4単位中3単位【96時間】	LHR	その他の教科、連携・交流等
4月			研究テーマ探し（1時間） オリエンテーション（1時間） 授業全体のスケジュールの説明を受ける。		
5月	ソフトウェア HTMLやCSS について学習 する（知、技）	メディアの 種類と特性 情報の編集、文 字デザインにつ いて学習する。 （知、技） レポート、チラシ の作成について 学習する。 （知、技）	情報の収集 整理・分析 （3時間） 学校の身近な社会生活で困っていることや課 題を調べ、ブレインストーミングやKJ法等を 用いて、テーマの候補を探す。 課題の設定 情報の収集 （5時間） 各人の関心テーマ、および技能等を考慮し、 6・7人の班に分かれて、グループ テーマの設定を目指す。		
6月			整理・分析 まとめ・表現 振り返り （5時間） 各班で定めた研究テーマについて、教職員に 対して、研究の意義、研究手法の説明を中心 にプレゼンを行う。 （1班あたり、質疑応答含めて20分） 課題の設定 情報の収集 整理・分析 まとめ・表現 （6時間） 教職員プレゼンでの指摘事項を踏まえて、 テーマの再設定や研究計画の検討を行う。再 度、構想がまとまり次第、教職員に計画のプ レゼンを実施し、許可が出た班から活動を開 始する。		
7月			情報の収集 整理・分析 （16時間） ・テーマに類似した先行研究を探し、参考 にしながら、解決手法を検討する。 ・基礎調査を終えて班内で共有した後、役 割分担に分かれた活動に移行する。 ・各人でワークシート（週報）を記録して いく。	・進路学習、 オープンキャ ンパス体験、 入試面接練習 （思、判、表）	
9月	ソフトウェア/情報メディアの活用 DTPソフトの操作方法について学習する。 （知、技） 参考文献、および引用のルールにつ いて学習する。（知、技）		まとめ・表現 振り返り （3時間） これまでの研究の進捗、および8、9月の活 動計画を報告するレポートを作成し、クラス 内で発表する。 情報の収集 整理・分析 （19時間） 研究活動を行う。1週間ごとに担当についた 教職員に報告しながら、必要に応じてアド バイスもらう。		・専修大学 ネットワーク情報学部 教育課程連携 プログラム 3年生プロジェクト学 習中間ポスター発表会 参観 （思、判、表） （学、人）
10月	中3生 対象 模擬授業		まとめ・表現 振り返り （4時間） 見学に来る中学校3年生とその保護者に対 して、研究のねらい、手法、研究経過、今後 の予定をまとめた中間ポスターを作成し、発 表する。 情報の収集 整理・分析 （12時間） ・中間発表のポスター制作過程で気付いた 事項について、追加調査や補足の活動に 取り組む。 ・事実と考察を整理する。		
11月	課題研究 発表会		まとめ・表現 （6時間） 研究成果を発表用ポスター（A1で3枚）に まとめ、ポスターを基に発表する練習を班内 で行う。 発表では、各人が一人で説明できることを目 指す。		
12月			情報の収集 整理・分析 まとめ・表現 （16時間） ・発表会で作成したポスターを基本に、各 人がA4で2枚にまとめた卒論を執筆す る。 ・卒論においては、先行研究、引用、事実 と考察、今後の発展性等について取り扱 う。		
1月			卒論執筆（16時間）		
2月					
3月					

総合的な探究の時間(課題研究) 単元計画

千葉県立袖ヶ浦高等学校

情報コミュニケーション科 第3学年

1 単元名

研究テーマ探し【14時間／96時間】

※課題研究(4単位)のうち3単位を探究的活動に充てており、計画案では「総合的な探究の時間」に置き換えて表記している。

2 単元設定の理由

将来の変化を予測することが困難な時代には、よりよい社会と幸福な人生を自ら作り出していくことが重要になる。そのため、自らの人生や社会における答えの定まっていない問いを受け止め、多様な他者と議論を重ねて探究し、「納得解」を得るための能力が必要となる。課題研究では、「情報」で学習してきた全てを基に、教科の枠にとらわれずに自ら課題を設定し、解決を図る学習を通して専門的な知識や技能を深めるとともに、研究発表会および卒業論文の執筆をもって、高等学校での学習を総合化、可視化することを目指す。

この単元では、研究活動を始めるに際し、生徒各人の興味・関心、1・2年次での調査・発表活動で蓄積してきた学習内容を土台に、情報整理活動を通じて、研究グループの振り分け、および1年間の研究活動に相応しいテーマの設定を目指す。

3 単元目標

- (1) 実社会や実生活と自己の関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現できるようにする。
- (2) 課題解決に向けて、各自の個性を尊重するとともに、共通の課題に対して分担したり協業することにより、協働的に取り組む。
- (3) 探究に主体的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

4 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評価 規準	- 自ら設定した課題を深く掘り下げ、探究する過程において、情報セキュリティや情報モラルに配慮している。 - 情報機器を適切に活用して整理・分析・記録・評価する手法や意義について理解している。	- 学校生活や身近な社会の中から適切に課題を設定している。 - 調査・発表において、提示された内容を鵜呑みにするのではなく、要因や根拠を求めて追究している。 - 課題解決に必要な情報を分析し、類別して蓄積している。 - 視点を定めて多様な情報を分析している。 - 相手や目的、意図に応じて論理的に表現している。	- 自分の意思で真摯に課題に向き合い、解決に向けた探究に取り組もうとしている。 - 課題解決のために必要な知識や技能を身に付けようとしている。 - 共同して研究・発表を行うことで養われる、自他のよさを認め、特長を生かしながら、協働して解決に向けた探究に取り組むことを通じ、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。

5 指導計画(14時間)

時間	主な学習活動	探究過程	○：指導上の留意点と◎：評価
1時間	【オリエンテーション】 ・スティーブジョブズのスタンフォード大学卒業式スピーチ動画を視聴し、グループで内容を整理する。 ・年間の授業の流れについて確認する。	整理・分析	○ 学生に伝えたかったことに重点をおいた意見交換を促し、「stay hungry, stay foolish (ハングリーであれ、愚か者であれ)」の解釈を発表、共有させる。 ○ 「点はつながる。しかし、予測できないもの」という部分に着目させ、今後設定する研究テーマが、個人の進路や関心と直接的につながらない状況に備えた意識付けを行う。 ◎ 視点を定めて多様な情報を分析している。 (ワークシート、行動観察)【 思・判・表 】 ◎ 相手や目的、意図に応じて論理的に表現している。 (ワークシート、行動観察)【 思・判・表 】 ◎ 自分の意思で真摯に課題に向き合い、解決に向けた探究に取り組もうとしている。 (行動観察)【 主 】
	・学校や身近な社会生活で困っていることや課題を調べる。		○ ブレインストーミングの原則に従い、現実のできる／できないにとらわれず、まずは「困っている、あったらいいな・できたらいいな」という観点で、周囲の6・7人でのグループワークを促す。 ○ ネットを用いた検索だけではなく、1・2年次の調査活動で作成し、クラス全員で共有しているデジタル資料なども参考にさせる。

3 時間	・ブレインストーミングやKJ法[※]等を用いて、研究テーマの候補を探す。(小グループ内) ・ブレインストーミングやKJ法[※]等を用いて、研究テーマの候補を探す。(クラス全体)	情報整理の・収分集析	○ 班内で、一度アイデアの類別化をさせ、画像で保存させた後に、クラス（教室）全体で、4つ程度の大グループに各班の付箋を再分類していく。 ◎ 情報機器を適切に活用して整理・分析・記録・評価する手法や意義について理解している。(行動観察)【 知・技 】 ◎ 課題解決に必要な情報を分析し、類別して蓄積している。(ワークシート、行動観察)【 思・判・表 】 ◎ 視点を定めて多様な情報を分析している。(行動観察)【 思・判・表 】
5 時間	・各人の関心、技能等を考慮し、6・7人の班に分かれ、グループテーマの設定を目指す。 【ワークシートに即して、各自が関心あるテーマの仮説・要因を整理する】 ↓ 【班内で検討し、テーマ候補について分担して追加調査を行う】 ↓ 【研究の意義や目的、先行研究、具体的な手法について検討する】 ↓ 【データを整理してプレゼンの準備をする】	課題情報の設定集	○ 前時までのワークシート（週報）で記録されている生徒各人の関心や技能を考慮して班設定を行った上で、担任と相談して班を確定させる。 ○ 3名揃えば、負担の偏りなくグループでの研究活動は成立するので、大テーマ内で2グループに分割させることに問題はない。 (両グループとも研究に厚みが担保されるならば、最終的なポスター発表時点で独立させることは可能) ○ 課題の設定は、テーマが壮大になりがちなため、動き出しが軽くなるように対象を学校や市など限定的に絞らせて研究を始めさせる。また、一定の活動実績を重ねた後に、発展させるように指導する。 ◎ 学校生活や身近な社会の中から適切に課題を設定している。(ワークシート、行動観察)【 思・判・表 】 ◎ 調査・発表において、提示された内容を鵜呑みにするのではなく、要因や根拠を求めて追究している。(ワークシート、行動観察)【 思・判・表 】 ◎ 自分の意思で真摯に課題に向き合い、解決に向けた探究に取り組もうとしている。(行動観察)【 主 】
5 時間	・各班で定めた研究テーマについて、教職員に対して、研究の意義、スケジュール、研究手法の説明を中心にプレゼンを行う。 【1班あたり、質疑応答含めて20分程度】 ・発表が終了した班は、プレゼンで指摘されたことを調べ直し、計画の修正、または課題の再設定に取り組む。 ・修正案がまとまり次第、再度教職員に対して、プレゼンを実施し、合格が出た班から研究に着手する。	振ま整理と理返め・り・分表析現	○ プレゼンに際しては、発表資料を前日までに教職員に提出させ、発表自体は7分程度に収めさせる。 ○ 研究の意義、特に問題の背景については、1年間を通じて耐えうる「問い」なのか質疑で生徒の認識をしっかりと確認しておく。仮調査アンケートなどを早い段階で促し、課題設定の妥当性を検討する材料を作らせる。 ○ 先行研究の把握を指摘し、焦点がぼけている場合は、教職員側から探し方の提案をして、テーマ設定を支援する。 ○ 研究の前後で変化が把握しやすいテーマを意識させる。量的な変化の方が集めやすいが、質的な変化の把握が必要な場合は、初期段階からデータの収集・処理方法を意識をさせておく。 ◎ 自ら設定した課題を深く掘り下げ、探究する過程において、情報セキュリティや情報モラルに配慮している。(行動観察)【 知・技 】 ◎ 調査・発表において、提示された内容を鵜呑みにするのではなく、要因や根拠を求めて追究している。(ワークシート、行動観察)【 思・判・表 】 ◎ 相手や目的、意図に応じて論理的に表現している。(行動観察)【 思・判・表 】 ◎ 自分の意思で真摯に課題に向き合い、解決に向けた探究に取り組もうとしている。(行動観察)【 主 】 ◎ 課題解決のために必要な知識や技能を身に付けようとしている。(行動観察)【 主 】 ◎ 共同して研究・発表を行うことで養われる、自他のよさを認め、特長を生かしながら、協働して解決に向けた探究に取り組むことを通じ、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。(行動観察)【 主 】

活 動 内 容	教 師 の 支 援
○本時の学習活動と学習の流れを確認する。 （各グループで検討したテーマと研究の概要について、先生方にタブレットを使い、プレゼンテーションを行う。） ・発表グループはプレゼンテーションを行う教室に移動する。 ○プレゼンテーションを行う。（5分＋質疑応答15分） ・プレゼンテーション資料を先生方に配り、タブレットを使って、研究テーマ、研究の概要について発表する。 ・発表後、質疑応答を行う。 【先生方からの質問例】 ◎「この研究の目的は何ですか。」 ◎「この研究の結論は何ですか。また、それをどのように調べますか。」 ◎「この研究を行うことが、社会へどのように関わることになりますか。」 ◎「今回の研究で行いたいことが〇〇であるならば、それは「情報」の課題研究ではないと思いますが、どうでしょうか。」 ◎「この研究にみなさんはどのように関わっていきますか。これを行うことは研究になりますか。」 ◎「モデルを作るだけでは研究としては不十分なので、実際に動くものは作れませんか。」 ◎「この研究は現実的に可能ですか。現状で行うためにはどのような工夫が必要ですか。」 ◎「視点を変えて〇〇な方向から行ってみると取り組みやすくなると思うが、どうですか。」 ○次のプレゼンテーションに向けて、再検討を行う。	・発表の順番やプレゼンテーションの方法等は事前に連絡しておく。 ・次のグループは発表の準備をさせておく。 ・プレゼンテーションが終わったグループは再検討するように指示しておく。 ・先生方は下記の視点を中心に、具体的にどのようなことを行っていくのかを確認する。 【課題設定における指導の視点】 ☆探究活動としてふさわしいか。 ☆実現可能であるか。 ☆1年間の研究として適切か。 ☆研究したことが学校や地域のためになるか。 ☆今後に生かせるか。等  ・今回のプレゼンテーションを終えて修正すべき点や不十分である点について、各グループで再検討を行う。場合によっては、テーマの変更も検討する。

おわりに

平成28年12月の中央教育審議会答申においては、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要であることが示されました。そのために、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現を目指すことなどが求められました。今回の学習指導要領改訂において新設された「総合的な探究の時間」は、新学習指導要領で捉えなおされた「生きる力」を育成する最適な教科であると言えるのではないのでしょうか。

「令和2年度『総合的な探究の時間』の進め方ガイドブック（理論編）」は、県内の研究協力校6校の協力のもと、学校の体制づくり、指導過程や授業の様子などを現場の実践を基にまとめた冊子です。「目指す生徒の資質・能力は何か」「どのように課題を自分事として捉えさせるか」「生徒に何を与え、何を考えさせるのか」研究協力校は悩み続けながらも、独自の切り込み方で、独自の方法で、生徒の探究活動を深めていました。まさに、先進的な取組、特色ある取組を実践しているこれらの学校は、コロナ禍においても自校の取組を探究し続けていました。こういった研究協力校の実践をなくしては、本冊子をまとめることはできませんでした。協力校の取組に深く感謝申し上げます。

○主な引用・参考文献等

- ・「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」
- ・「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編」
- ・「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総合的な探究の時間編」
- ・「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」中央教育審議会（平成28年）
- ・「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」文部科学省（平成25年）
- ・「深い学び」田村 学（東洋館出版社 平成30年）
- ・「すぐに使える校内研修の手法とツール」千葉県総合教育センター（平成29年）
- ・「カリキュラム・マネジメント サポートブック」千葉県総合教育センター（平成31年）
- ・「シンキングツール～考えることを教えたい～」黒上晴夫・小島亜華里・泰山裕
http://ks-lab.net/haruo/thinking_tool/short.pdf（平成24年）
- ・『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料【高等学校 総合的な探究の時間】』（令和3年）
- ・「学習評価の在り方ハンドブック高等学校編」文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター（令和元年）
- ・「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価」岡山県総合教育センター（令和2年）

研究講師及び研究協力員一覧 (敬称略)

○講師

〈令和元年度・2年度〉

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 渋谷 一典

〈令和元年度〉

文部科学省初等中等教育局視学官

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官・学力調査官
藤枝 秀樹

○研究協力校・協力員

〈令和元年度・2年度〉

県立長生高等学校	教諭	片岡 勝規
県立大原高等学校	主幹教諭	両角 治徳
県立袖ヶ浦高等学校	教諭	大河原貴徳 (令和元年度)
	教諭	長谷川 翼 (令和2年度)

〈令和2年度〉

県立小金高等学校	教諭	椿 仁三千
県立浦安高等学校	教諭	大平 豊
県立松尾高等学校	教諭	林 潤一郎

○研究担当職員

〈令和元年度〉

千葉県教育庁教育振興部学習指導課教育課程室

指導主事 簾 雄太

千葉県総合教育センター カリキュラム開発部

部長 古市 利行

研究開発担当 研究指導主事 黒川 健二

研究開発担当 研究指導主事 高木 葉子 (主担当)

研究開発担当 研究指導主事 米本 英裕

研究開発担当 研究指導主事 神澤 光

研究開発担当 主査 尾高 信行

〈令和2年度〉

千葉県教育庁教育振興部学習指導課高等学校指導室

指導主事 長嶋 健二

千葉県総合教育センター カリキュラム開発部

部長 朝倉真由美

研究開発担当 主席研究指導主事 福中 義宏

研究開発担当 研究指導主事 吉田 康德 (主担当)

研究開発担当 研究指導主事 山川 亮

研究開発担当 研究指導主事 竹政 崇典

研究開発担当 主査 尾高 信行

研究報告 第449号

研究報告 「総合的な探究の時間」の進め方ガイドブック
(理論編)

令和4年3月改訂

編集発行者 千葉県総合教育センター所長

酒井 昌史

発行所 千葉県総合教育センター

〒261-0014 千葉市美浜区若葉2丁目13番地

TEL 043 (276) 1166

FAX 043 (272) 5128
